

リニアPCMLレコーダー

取扱説明書

PCM-D10の特長

準備

録音

再生

BLUETOOTH®機能

編集

困ったときは

その他

インターネット上でヘルプガイド (Web取扱説明書) を閲覧できます (パソコン・スマートフォン用)。リニアPCMLレコーダーの詳しい使いかたや困ったときの対処方法を説明しています。
<http://rd1.sony.net/help/icd/pcmd10/ja/>





警告

安全のために(95~98ページも合わせてお読みください。)

お買い上げいただきありがとうございます。

電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。この「取扱説明書」と「ヘルプガイド」(パソコン等で見える電子マニュアル)には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。よくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

- **安全のための注意事項を守る**
- **故障したら使わない**
- **万一異常が起きたら、お買い上げ店またはソニーサービス窓口 に修理を依頼する**

警告表示の意味

この取扱説明書では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。



危険

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電・破裂などにより死亡や大けがなど人身事故が生じます。



警告

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなど人身事故の原因となります。



注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号	 火災	 感電
行為を禁止する記号	 禁止	 接触禁止
	 ぬれ手禁止	 分解禁止
行為を指示する記号	 指示	

- 本製品の不具合により、録音や再生ができなかった場合、および録音内容が破損または消去された場合など、いかなる場合においても録音内容の補償についてはご容赦ください。また、いかなる場合においても、当社にて録音内容の修復、復元、複製などはいたしません。
- 本製品を使用したことによって生じた金銭上の損害、逸失利益および第三者からのいかなる請求につきましても、当社は一切その責任を負いかねます。
- 録り直しのきかない録音の場合は、必ず事前にためし録りをしてください。
- お客様が録音したものは個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。
- 本機で録音された音声ファイルには、著作権保護技術は使用されていません。

マニュアルについて



紙で見る

取扱説明書(本書)

リニアPCMレコーダーの基本操作(録音・再生・削除)や上手に録音、再生するための情報、困ったときの解決方法などを記載しています。

REC Remote (レックリモート)を使う(別冊)

スマートフォン用アプリ「REC Remote」のインストール方法やできること、基本的な操作方法を記載しています。

SOUND FORGE Audio Studio 12 インストールガイド(別冊)

パソコンにインストールできるソフト「SOUND FORGE Audio Studio 12」のインストール方法などを記載しています。



パソコン、スマートフォン、
タブレットで見る

ヘルプガイド(Web取扱説明書)

リニアPCMレコーダーの楽しみかたや機能の詳細説明、困ったときの対処方法などをパソコンで調べることができます。

また、外出先などでスマートフォンやタブレット端末で調べることもできます。

閲覧は無料ですが、通信料は通信契約に依存します。

リニアPCMレコーダー サポート・お問い合わせページ(103 ページ)

トラブルの解決方法や接続機器の互換性情報、最新情報を掲載しています。

目次

安全のために	2
マニュアルについて	4

PCM-D10の特長

こんなことができます	8
------------------	---

準備

各部の名前と働き	10
箱の中身を確認する	17
準備1：電源を準備する	18
準備2：初期設定をする	21
ホームメニュー、オプションメニューの使いかた	22
ファイルを選ぶ	25
誤操作を防止する(ホールド)	26

録音

録音前の準備	27
録音する	31
内蔵マイクを使って録音する	31
録音中の音を聞く(録音モニター)	34
少し前から録音する(プリレコーディング機能)	35
SDカードに録音する	36
SDカードを入れる	36
録音先メモリーを後から変更するには	37

接続して録音する	38
外部マイクをMIC IN/LINE INジャックに接続して録音する	38
外部マイクをXLR/TRSジャックに接続して録音する	39
マイクの音量を瞬時に下げる(マイクアッテネート)	40
XLR/TRSジャックに接続した外部機器からLINE入力で録音する	41
MIC IN/LINE INジャックに接続した外部機器から LINE入力で録音する	41

再生

再生する	43
フォルダとファイルについて	44
その他の方法で再生する	46
聞きたいところをすばやく探す(イージーサーチ機能)	48
再生音質を選ぶ	49
音質を切り替える(イコライザー)	49
音程を調節する(キーコントロール)	49
再生速度を調節する(DPC)	50
外部機器に接続して再生する	51

BLUETOOTH®機能

ワイヤレスで音を聞く	52
スマートフォンでリニアPCMレコーダーを操作する(REC Remote)	54
その他のBluetooth機能	55

編集

ファイルを削除する	56
ファイルを保護する	57
フォルダやファイルの名前を変更する	58
トラックマークを使う	59
ファイルを分割する	60
フォルダ内のファイルを整理する(ファイル移動・ファイルコピー)	62
カスタムキー (C1/C2)に機能を登録する	63
各種設定を変更する	64
パソコンにつないで使う	71
リニアPCMレコーダーをパソコンに接続する	72

困ったときは

困ったときは	73
症状から調べる	74
システム上の制約	82
サポートページ/ヘルプガイドについて	83
保証書とアフターサービス	84

その他

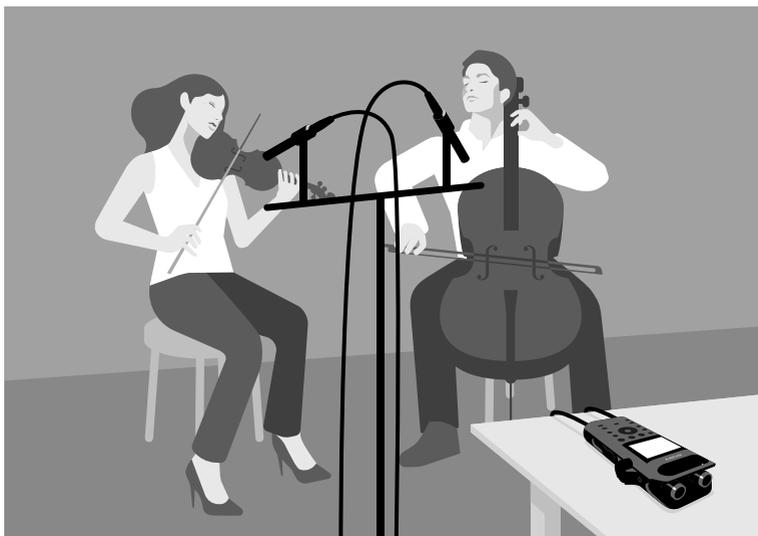
主な仕様	85
使用上のご注意	92
電池についての安全上のご注意	97
著作権と商標とライセンスについて	99
索引	101

こんなことができます



ライブ演奏の録音に

- 内蔵マイクで簡単に録音できます。複雑なマイクセッティングは不要です。
- お使いのスマートフォンに専用アプリ「REC Remote」をインストールして使用すると、離れた場所から録音開始／停止などのリニアPCMレコーダーの操作ができます。(54 ページ)
- 市販のカメラ用三脚に取り付けられます。
- クロスメモリー録音機能を使って、内蔵メモリーからSDカードに録音ファイルの保存先を自動的に切り替え、長時間の録音ができます。(30 ページ)

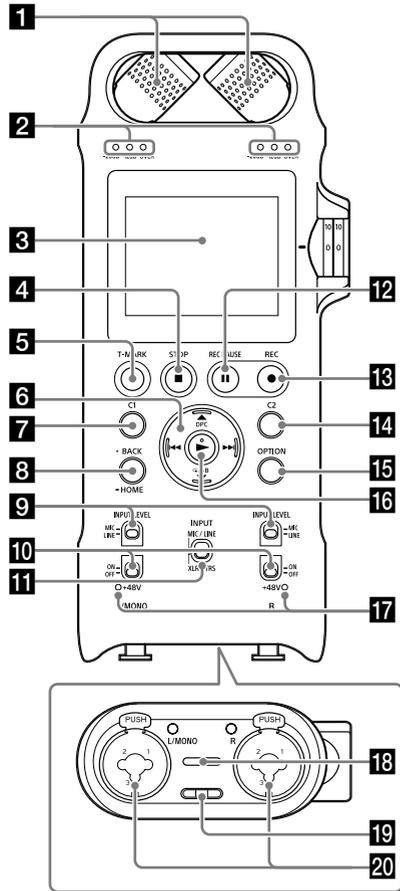


外部マイクで楽器演奏の録音に

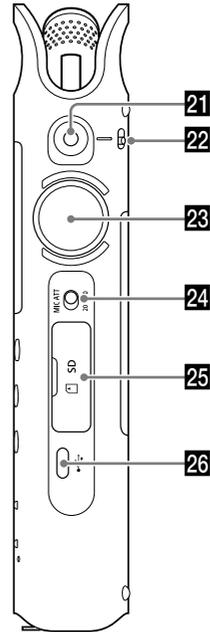
- 市販のXLR端子やTRS端子を搭載した外部マイクをリニアPCMレコーダーのXLR/TRSジャックに接続することができます(39 ページ)。
- 市販のステレオミニプラグの付いた外部マイクをリニアPCMレコーダーのMIC IN/LINE INジャックに接続することができます(38 ページ)。
- 単3形アルカリ乾電池4本でロングバッテリーライフを実現。MIC IN/LINE INジャックに外部マイクを接続して約44時間(録音モード：LPCM 44.1 kHz/16 bit)、XLR/TRSジャックに外部マイクを接続して約6時間(録音モード：LPCM 44.1 kHz/16 bit、ファンタム電源：ON)の録音ができます。
- 録音時と再生時の音声は、L/R独立して聞くことができます(34、43 ページ)。

各部の名前と働き

本体前面



本体右側面



1 内蔵マイク (31 ページ)**2 ピークレベルランプ(L/R) (32 ページ)**

入力レベルに応じて、「-20dB」(緑)、「-12dB」(橙)、「OVER」(赤)のランプでピークレベルを確認できます。

3 表示窓 (14 ページ)**4 ■STOP (停止) ボタン (33 ページ)****5 T-MARK (トラックマーク) ボタン (59 ページ)****6 コントロールボタン (▲DPC (速度調節)、▼◁ (リピート) A-B、◀◀ (早戻し)、▶▶ (早送り))****7 C1 (カスタム1) ボタン (63 ページ)**

よく使う機能を登録することができます。

8 BACK/◀ HOME (戻る/ホーム (長押し)) ボタン (22 ページ)

BACK/HOMEボタンを押すと前画面に戻り、1秒以上押すと、ホームメニューが表示されます。

9 XLR/TRS INPUT LEVEL (XLR/TRS入力種別切り替え) スイッチ (L/R)

XLR/TRSジャックに接続する機器に合わせて、「MIC」または「LINE」を切り替えます。

10 ファンタム電源スイッチ (L/R)

XLR/TRSジャックにファンタム電源対応の外部マイクを接続する場合は、「ON」に合わせて電源供給します。

11 INPUT (入力切り替え) スイッチ

「MIC/LINE」に合わせると、MIC IN/LINE INジャックに接続した外部マイクから入力された音声を録音します。

MIC IN/LINE INジャックに外部マイクが接続されていない場合は、内蔵マイクから音声を録音します。「XLR/TRS」に合わせると、XLR/TRSジャックに接続したマイクから入力された音声を録音します。

12 II REC PAUSE (録音一時停止) ボタン/ランプ (33 ページ)**13 ●REC (録音) ボタン/ランプ (31 ページ)****14 C2 (カスタム2) ボタン (63 ページ)**

よく使う機能を登録することができます。

15 OPTION (オプション) ボタン (22 ページ)**16 ▶ (再生/決定) ボタン**

凸点(突起)がついています。操作の目安、端子の識別としてお使いください。

17 ファンタム電源ランプ(L/R)**18 内蔵スピーカー (43 ページ)****19 ストラップ取り付け部**

ストラップは付属していません。

20 XLR/TRSジャック (L/R)**21 MIC IN/LINE INジャック (φ3.5ステレオジャック)**

外部マイクやオーディオ機器を接続して音声を録音します。

22 MIC/LINE INPUT LEVEL (MIC/LINE入力種別切り替え) スイッチ

MIC IN/LINE INジャックに接続する機器の出力レベルに合わせて、「MIC」または「LINE」を切り替えます。

23 REC LEVEL (録音レベル) ダイアル

表示窓横の「-」の位置にレベル(0 ~ 10)を合わせ、録音時の音量を調節します。

ダイヤルを回すと、左右両方のチャンネルの録音レベルを調節します。左右のチャンネルの録音レベルのバランスを変えたい場合は、外側のダイヤルを引っ張り、内側のダイヤルと離してください。外側のダイヤルで右のチャンネル、内側のダイヤルで左のチャンネルの録音レベルを調節できます。

24 MIC ATT (マイクアッテネーター) スイッチ (40 ページ)**25 SDカードスロット (36 ページ)**

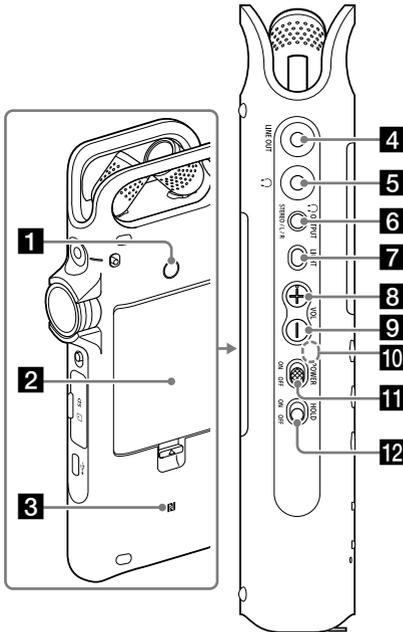
スロット蓋の中にあります。

26 USB Type-C™端子

ご注意

- 外部マイクや外部機器をXLR/TRSジャックに取り付けたり、取り外したりするときは、必ずファンタム電源スイッチを「OFF」の位置に合わせてください。「ON」のままケーブルの抜き差しを行うと、大きなノイズが出たり、外部機器が故障したりする可能性があります。
- ファンタム電源スイッチを「ON」の位置に合わせていると、リニアPCMレコーダーの電池の消費が大きくなります。ファンタム電源対応のマイクを使用しない場合は、ファンタム電源スイッチを「OFF」の位置に合わせてください。

本体背面、本体左側面



1 三脚取り付け用穴

三脚は付属していません。

2 電池蓋(18 ページ)

3 N(Nマーク)(53 ページ)

NFC機能があるスマートフォンやBluetoothオーディオ機器をここにタッチして接続します。

4 LINE OUT (ライン出力)ジャック (51 ページ)

5 (ヘッドホン)ジャック (34、43 ページ)

6 (OUTPUT) (ヘッドホン出力切り替え) ボタン (34 ページ)

ヘッドホン出力の「STEREO」「L」「R」を切り替えます。

7 LIGHT (ライト) ボタン

表示窓のバックライトを点灯/消灯します。

8 VOL+ (音量+) ボタン*

9 VOL- (音量-) ボタン

10 内蔵Bluetoothアンテナ

Bluetooth機器と接続します。

Bluetooth接続中は手などでおおわないようにしてください。Bluetooth接続に障害を起こす場合があります。

11 POWER (電源) スイッチ (19 ページ)

電源を「ON」/「OFF」(入/切) します。

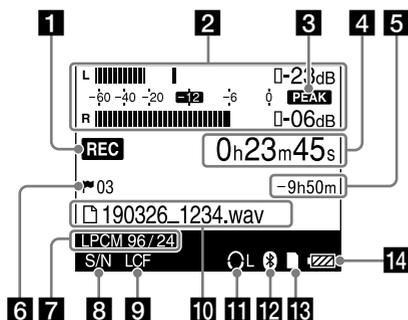
12 HOLD (ホールド) スイッチ (26 ページ)

「ON」側にずらすと、ボタン操作が働かなくなり、誤操作を防ぎます。録音/再生中は、常に「ON」の位置にしておくことをおすすめします。解除するときは、「OFF」側にずらします。

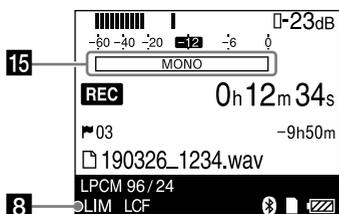
* 凸点(突起)がついています。操作の目安、端子の識別としてお使いください。

表示窓

■録音画面(ステレオ録音時)



■録音画面(モノラル録音時)



ご注意

「表示窓」に記載の画面は、画面機能の説明のため、一部実際の画面表示とは異なる場合があります。

1 録音状態

リニアPCMレコーダーの操作状態に応じて、下記の表示が出ます。

REC	録音
 (点滅)	録音一時停止、録音スタンバイ

2 ピークレベルメーター／ピーク値 (32 ページ)

ピークレベルメーターとピーク値を表示します。過度に大きな音が入力された場合は **OVER** と表示されます。

メニューの「ステレオ/モノラル」設定が「モノラル」のときは、ピークレベルメーター左側の「L」「R」と、Rの領域が表示されません。

3 PEAKアイコン

メニューの「ピークホールド」設定が「マニュアル」のときに表示されます。

4 経過時間表示

5 録音可能時間表示

録音可能時間を時、分、秒で表示します。

10時間以上：時間

10時間未満、10分以上：時間、分

10分未満：分、秒

6 トラックマーク表示(59 ページ)

設定されているトラックマークの数を表示します。

7 録音モード(64 ページ)

メニューで設定されている録音モードが表示されます。

8 リミッター／高S/Nモード(65、66ページ)

メニューの「リミッター」設定または「高S/Nモード」設定が有効なときに表示されます。

9 LCF設定(65 ページ)

メニューの「LCF(Low Cut)」設定が有効なときに表示されます。

10 ファイル名/フォルダ名

録音時または録音一時停止時にファイル名が表示されます。

録音停止または録音スタンバイ状態のときは、フォルダ名(例: FOLDER01)が表示されます。

11 出力チャンネル表示(34 ページ)

ヘッドホンに出力する音声はLまたはRに設定されているときに表示されます。ステレオ音声を出力しているときは、表示されません。

12 Bluetoothマーク

Bluetooth機能が有効になっているときに表示されます。

13 メモリーカード表示

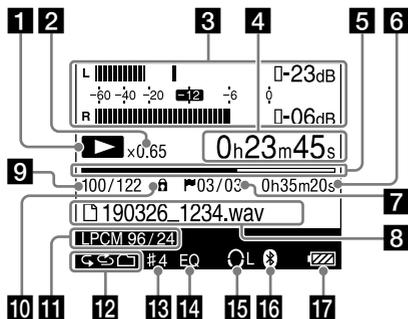
「録音先フォルダ」の「メモリー選択」で「SDカード」を設定しているときに表示されます。

14 電池残量(19 ページ)**15 モノラルアイコン**

メニューの「ステレオ/モノラル」設定が「モノラル」のときに表示されます。

各部の名前と働き(つづき)

■再生画面



1 再生状態

	再生
	停止
	早戻し/早送り再生

2 DPC速度表示(50 ページ)

メニューの「DPC(速度調節)」で設定している再生スピードが表示されます。

3 ピークレベルメーター/ピーク値(録音ファイルのみ)(32 ページ)

ピークレベルメーターとピーク値の最大値を数値で表示します。

4 経過時間表示

1ファイルの再生経過時間を表示します。

5 プログレスバー

再生の進行状況が表示されます。

6 ファイルの長さ

ファイルの長さを表示します。

7トラックマーク表示(59 ページ)

現在位置のトラックマーク番号が表示されます。トラックマークが設定されているときにだけ表示されます。

8 ファイル名

9 ファイル位置情報表示

選んだファイル番号が分子に、総ファイル数が分母に表示されます。

総ファイル数が4桁を超えると、ファイル番号のみが表示されます。

10 保護表示(57 ページ)

ファイルが保護されているときに表示されます。

11 録音モード(64 ページ)

再生中のファイルの録音モードが表示されます。

12 再生モード表示(67 ページ)

リピート再生、シャッフル再生などの再生モードが表示されます。

13 キー表示(49 ページ)

再生音の音程を変更しているときに表示されます。

14 イコライザー設定(49 ページ)

メニューの「イコライザー」設定が有効なときに表示されます。

15 出力チャンネル表示(34 ページ)

ヘッドホンに出力する音声がLまたはRに設定されているときに表示されます。ステレオ音声を出力しているときは、表示されません。

16 Bluetoothマーク

Bluetooth機能が有効になっているときに表示されます。

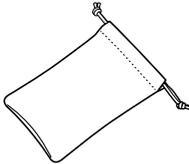
17 電池残量(19 ページ)

箱の中身を確認する

- 本体 (1)
- USB Type-C™ケーブル (USB-A - USB-C) (1)



- キャリングポーチ (1)



- ウィンドスクリーン (1)



内蔵マイクにかぶせてご使用ください。
詳しくは、29 ページをご覧ください。

- ソニー単3形アルカリ乾電池 (4)

- 取扱説明書 (本書) (1)
- REC Remote (レックリモート) を使う (1)
- SOUND FORGE Audio Studio 12 インストールガイド (1)
「SOUND FORGE Audio Studio 12」は、パソコンでの加工やCD作成をサポートするアプリケーションソフトウェアです。インストール方法などについては、「SOUND FORGE Audio Studio 12 インストールガイド」をご覧ください。
- 保証書 (1)
- 製品のサポート登録のおすすめ (1)

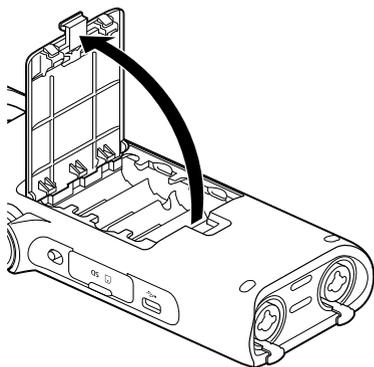
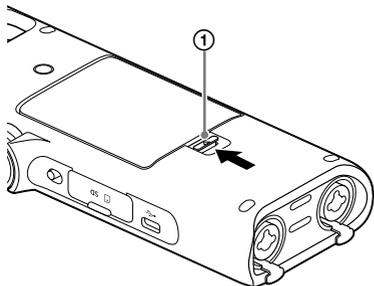
ご注意

この取扱説明書で説明している以外の変更や改造を行った場合、リニアPCMレコーダーを使用できなくなることがありますので、ご注意ください。

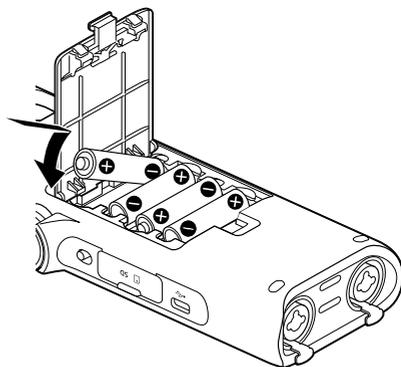
準備1：電源を準備する

電池を入れる

1 本体背面の電池蓋のタブ(①)を矢印の方向に押しながら持ち上げて、電池蓋を開けます。

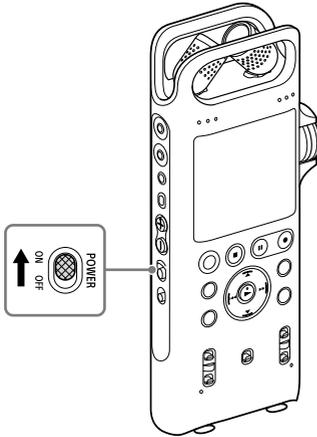


2 付属の単3形アルカリ乾電池4本を入れます。
電池の⊕と⊖の向きを正しく入れてください。



3 電池蓋を閉めます。

電源を入れる



POWERスイッチを「ON」の位置にスライドさせて電源を入れると、表示窓に「Power On」、続いて「しばらくお待ちください」と表示され、動作に必要な情報を読み込みます。

お買い上げ後初めて電源を入れると

「初期設定をしてください」と表示されます。

▶ ボタンを押して、言語設定、時計設定、操作音の設定を行ってください。(21 ページ)

電源を切る

POWERスイッチを「OFF」の位置にスライドさせます。表示窓に「電源オフ」と表示され、電源が切れます。

電池の交換時期

電池を使用しているとき、表示窓に電池残量が表示されます。

残量は充分です。



電池を4本とも交換してください。



「電池残量がありません」とメッセージが表示されます。電池が完全に消耗したため、操作ができなくなります。

ご注意

- 電池残量が1目盛以下になると、以下の機能が使えなくなります。
 - ファンタム電源から外部マイクへの電源供給
 - トラックマーク位置でのファイル分割
 - ファイル移動
 - ファイルコピー
 - フォルダ削除
 - フォルダ内全削除/リスト内全削除
 - メモリー初期化
- リニアPCMレコーダーでは充電式電池も使用できませんが、リニアPCMレコーダーに取り付けたまま充電することはできません。充電済みの充電式電池を取り付けて使用してください。
- 充電式電池をご使用の際は、ホームメニューから「各種設定」→「共通設定」→「電池設定」を選び、「ニッケル水素電池」に設定してください。

ヒント

- 電池で使用しているときは、停止状態で操作をしないまま放置していると、表示が消えてスリープ状態になります。スリープ状態になるまでの時間は、オートスタンバイ設定で変更することができます。(69 ページ)
- 最後に電源を切ってから4時間以内に再度電源を入れた場合は、すばやく起動します。

準備1：電源を準備する(つづき)

USB ACアダプターをつないで使う

別売のUSB ACアダプターを使って、家庭用電源コンセントにつないで使用することもできます。長時間録音をする場合などに便利です。

市販のUSB ACアダプターを使用するときは、出力電流500 mA以上で給電可能なUSB ACアダプターをご使用ください。これ以外の機器からの動作は保証しておりません。

また、USB ACアダプターを接続してリニアPCMレコーダーで充電式電池を充電することはできません。

ご注意

- 表示窓に「しばらくお待ちください」と表示されている間は、メモリーへアクセス中です。アクセス中は、電池を外したり、USB ACアダプターを抜いたり、USB Type-Cケーブルを抜き差ししたりしないでください。データが破損する恐れがあります。
- USB ACアダプターは容易に手が届くような電源コンセントに接続し、異常が生じた場合は速やかにコンセントから抜いてください。

準備2：初期設定をする

お買い上げのあと、はじめて電源を入れた際に「初期設定をしてください」と表示されます。

1 ▶ ボタンを押して決定します。

「言語設定(Language)」画面が表示されます。

2 ▲または▼ボタンで表示窓に表示する言語を選び、▶ボタンを押して決定します。

「日本語」または「English」(英語)を選ぶことができます。

「日付時刻設定」画面が表示されます。

3 ▲または▼ボタンで年を合わせ、▶ボタンを押して決定します。

日付時刻設定		
YEAR	MONTH	DAY
2019	/	1 / 1
12 : 00 AM		

◀◀または▶▶ボタンを押すと、年、月、日、時、分を移動できます。

4 同様に、月、日、時、分を合わせます。分を合わせて▶ボタンを押します。

5 「次へ」を選んで▶ボタンを押します。操作音の設定画面が表示されます。

6 「オン」または「オフ」を選び、▶ボタンを押して決定します。

設定が完了すると、ホームメニュー画面が表示されます。

ヒント

- 電池を取り外してから2分以上経過したあとに電池を入れ直したり、新しい電池に取り替えたりしたときは、時計設定の画面が表示され、電池を取り外す前に最後に操作した日時が表示されます。現在の日時に設定し直してください。
- BACK/HOMEボタンを押すと、カーソルが1つ前の項目に戻ります。
- 言語設定、時計設定および操作音設定は、ホームメニュー(22ページ)→各種設定→「共通設定」で後から変更もできます。

ホームメニュー、オプションメニューの 使いかた

ホームメニューで使いたい機能を選ぶ

リニアPCMレコーダーでは、各機能の入りがホームメニューにあります。

ここから各機能を選んだり、録音したファイルを探したり、設定を変更したりすることができます。

- 1 BACK/HOMEボタンを1秒以上押します。
ホームメニュー画面が表示されます。



- 2 ▲または▼ボタンを押して使いたい機能を選び、▶ボタンを押します。

以下の機能を選択できます。

録音	録音画面を表示します。録音を開始するには、本体のボタンを操作します。
録音したファイル	録音したファイルを選んで、再生できます。
ミュージック	パソコンから転送した音楽ファイルを選んで、再生できます。
Bluetooth	REC RemoteやNFC、Bluetoothオーディオ機器など、Bluetooth機能を使用するメニューを表示します。
各種設定	各種設定メニューを表示して、リニアPCMレコーダーのさまざまな設定ができます。
XX画面へ*	ホームメニューに入る前に表示していた画面に戻ります。

* XXには、現在使用している機能が表示されます。

- 3 画面の指示に従って操作します。

ヒント

ホームメニューで操作中に■ボタンを押すと、ホームメニューに入る前に表示していた画面に戻ります。

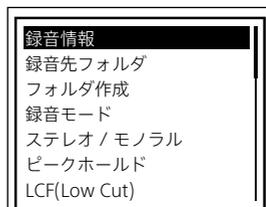
オプションメニューで設定する

OPTIONボタンを押すと、使用している機能に応じたオプションメニューが表示され、設定の変更などができます(23 ページ)。

表示されるメニューは、お使いの機能、動作状態によって異なります。

- 1 ホームメニューで機能を選んだあと、OPTIONボタンを押します。

使用している機能のオプションメニューが表示されます。



- 2 ▲または▼ボタンを押して設定したい項目を選び、▶ボタンを押して決定します。
- 3 ▲または▼ボタンを押して設定内容を選び、▶ボタンを押して決定します。

ヒント

1つ前の画面に戻るには、メニュー操作中にBACK/HOMEボタンを押します。

各種設定メニュー一覧

設定メニュー	設定項目	参照ページ
録音設定	録音先フォルダ	64
	フォルダ作成	64
	録音モード	64
	ステレオ/モノラル	64
	ピークホールド	29
	LCF(Low Cut)	65
	リミッター	65
	高S/Nモード	66
	プリレコーディング	35
	プラグインパワー	66
	クロスメモリー録音	30
自動トラックマーク	30	
再生設定	イコライザー	49
	キーコントロール	49
	イージーサーチ	48
	再生モード	67
	再生範囲設定	68
共通設定	ランプ	68
	バックライト	68
	操作音	68
	言語設定(Language)	68
	時計設定	68
	オートスタンバイ	69
	電池設定	69
	カスタムキー設定	63
	各種初期化	70
	録音可能時間	70
	本体情報	70

オプションメニュー一覧

🔊 録音

録音中や録音停止中に表示できます。
条件によっては表示されない項目もあります。

オプションメニュー名	参照ページ
録音情報	—
録音先フォルダ	64
フォルダ作成	64
録音モード	64
ステレオ/モノラル	64
ピークホールド	29
ピークリセット	29
LCF(Low Cut)	65
リミッター	65
高S/Nモード	66
プリレコーディング	35
クロスメモリー録音	30
1ファイル削除	56

□ 録音したファイル

録音したファイルの一覧を表示させているときや再生中、再生停止中に表示できます。

条件によっては表示されない項目もあります。

オプションメニュー名	参照ページ
録音画面へ	—
イコライザー	49
キーコントロール	49
イージーサーチ	48
再生モード	67
再生範囲設定	68
1ファイル削除	56
リスト内全削除	56
フォルダ内全削除	56
保護	57
保護解除	57
トラックマーク一覧	46
トラックマーク削除	59
分割	60
ファイル移動	62
ファイルコピー	62
ファイル名変更	58
ファイル情報	47
フォルダ作成	64
フォルダ削除	56
フォルダ名変更	58

♪ ミュージック

パソコンから転送した音楽ファイルの再生中、再生停止中に表示できます。

条件によっては表示されない項目もあります。

オプションメニュー名	参照ページ
イコライザー	49
キーコントロール	49
イージーサーチ	48
再生モード	67
再生範囲設定	68
1ファイル削除	56
リスト内全削除	56
フォルダ内全削除	56
保護	57
保護解除	57
トラックマーク一覧	46
トラックマーク削除	59
ファイル情報	47
フォルダ削除	56

ファイルを選ぶ

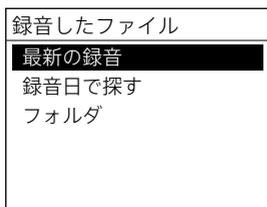
検索方法を選択してファイルを選ぶ

ホームメニューから再生、編集するファイルを選びます。

- 1 BACK/HOMEボタンを1秒以上押して、ホームメニューを表示します。
ホームメニュー画面が表示されます。



- 2 ▲または▼ボタンで「 録音したファイル」または「 ミュージック」を選び、▶ボタンを押します。
- 3 ファイルの検索方法を選びます。
▲または▼ボタンを押してファイルを検索する方法を以下から選び、▶ボタンを押します。
 録音したファイル：「最新の録音」、「録音日で探す」または「フォルダ」
 ミュージック：「全曲」、「アルバム」、「アーティスト」または「フォルダ」



検索方法で「フォルダ」を選んだ場合は、「メモリー選択」画面が表示されるので、ファイルの保存先のメモリーを「内蔵メモリー」または「SDカード」から選んでください。
別のソニー製ICレコーダーまたはリニアPCMレコーダーで録音したSDカードを挿入した場合、「SDカード(他機種)」が表示されます。

- 4 検索結果からリストまたはフォルダを選び、ファイルを選ぶ。

▲または▼ボタンを押してリストまたはフォルダを選び、ファイルを選びます。

ヒント

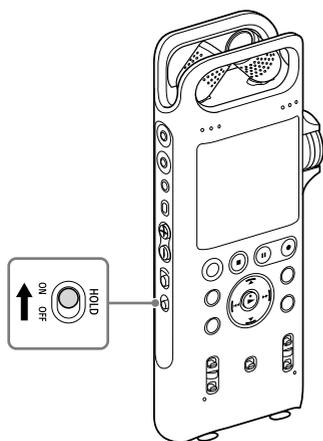
- 再生停止画面が表示されているときは、◀◀または▶▶ボタンを押してファイルを切り替えられます。
- お買い上げ時、「 録音したファイル」には「FOLDER01」のフォルダが作成されています。

誤操作を防止する(ホールド)

リニアPCMレコーダーを持ち運ぶ際など、誤ってボタンが押されて動作するのを防ぐために、すべてのボタン操作を無効にできます(ホールド)。

ボタン操作を無効にするには

電源が入っているときにボタン操作を無効にするには、HOLDスイッチを「ON」の位置にスライドさせます。



電源が入っているときに操作すると、「ホールド」と現在時刻が約3秒間表示されます。

ホールド状態でも、以下のスイッチおよびダイヤルは操作することができます。

- REC LEVELダイヤル
- POWERスイッチ
- INPUTスイッチ
- MIC/LINE INPUT LEVELスイッチ
- ファンタム電源スイッチ
- XLR/TRS INPUT LEVELスイッチ
- MIC ATTスイッチ

ホールド

10:23 AM

ホールドを解除するには

ホールドになっているときにボタン操作をすると、「ホールド中 HOLDスイッチを解除してください」と表示されます。

ホールドを解除するには、HOLDスイッチを「OFF」の位置にスライドさせます。

録音前の準備

リニアPCMレコーダーを設置するときは、内蔵マイクが音源に向くように、マイクの向きを調節します。

左右方向の音を正しく記録するには、リニアPCMレコーダーの前面を上に向けて置いてください。設置する位置やマイクの向きは、音源や使用するマイク、リニアPCMレコーダーの設定などによって異なりますので、マイクの特性を参考に、いろいろな設置位置での録音をお試しになることをおすすめします。

内蔵マイクを使って楽器の演奏を録音する場合の設置例

内蔵マイクの特性を考慮しながら、音源に対するリニアPCMレコーダーの向きとマイクの角度を調節してください。

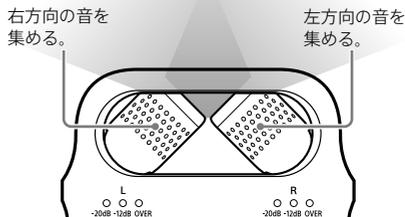
内蔵マイクの指向性について

内蔵マイクは、単一指向性です。録音するシーンに合わせて角度を変えることができます。

両方のマイクを内側に向けた場合 (X-Yポジション)

右側に設置されたマイクが左方向の音を、左側に設置されたマイクが右方向の音を拾います。自然で奥行きのあるステレオ感が得られます。ソロ演奏や2~3人のセッションなど、近い距離での録音におすすめです。

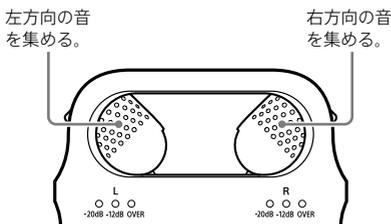
音源が極端にマイクに近づきすぎると、左右逆に音声が入力されますのでご注意ください。



録音前の準備(つづき)

両方のマイクを外側に向けた場合 (ワイドステレオポジション)

右側に設置されたマイクが右方向の音を、左側に設置されたマイクが左方向の音を拾います。広がりのあるステレオ感が得られます。コーラスやオーケストラなど大人数の演奏をホールで録音するなど、音源から距離がある場合におすすめです。



マイク入力の感度を切り替えるには

MIC ATTスイッチを切り替えます。

通常は「0」の位置に合わせておきます。大きい音を録音するときは、「20」の位置に合わせます。

(40 ページ)

ためし録りをおすすめします

部屋の大きさ、話をする人の声の大きさなど、録音環境は人によってさまざまです。望まれる「音質」も録音対象によって変わってきます。ためし録りは、大切な録音を失敗しないため、また、理想の音質に録音環境を整えるために大変有効なものです。

録音されるノイズを軽減するには

ノイズとして録音される可能性のある音について

リニアPCMレコーダーには、音声以外のさまざまな音が録音されてしまうことがあり、ノイズとして聞こえてしまいます。録音されるノイズには以下のようなものがあります。

- 触れたときの音
- マイクにあたる吐息
- 机に当たる音
- エアコン、プロジェクター、パソコンなどの動作音
- スマートフォンや携帯電話などの機器が発する電波のノイズ

上記のような音が気付かないうちにノイズとして録音されることがあります。録音中は、リニアPCMレコーダーに触ったり、ノイズとして録音される可能性のある音を出したり、ノイズを発する機器を近づけたりしないようにご注意ください。

REC Remoteを使う

お使いのスマートフォンに専用アプリ「REC Remote」をインストールして使用すると、離れた場所から録音開始/停止などの操作ができます。詳しい使用方法は、54 ページをご覧ください。

市販のカメラ用三脚を使って設置する

本体背面の三脚取り付け用穴に市販のカメラ用三脚を取り付けると、本体や内蔵マイクの角度をより正確に調節できます。また、手と本体の摩擦により発生しやすいノイズを防げます。

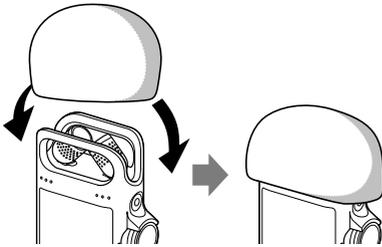
お使いのカメラ用三脚のネジがリニアPCMレコーダーの三脚取り付け用穴に合わない場合は、市販の変換ネジをお使いください。

付属のウインドスクリーンを使う

内蔵マイクに付属のウインドスクリーンをかぶせると、風や息が直接当たるときに発生する「ポコポコ」という雑音が軽減されます。

ウインドスクリーンの両端を引っ張り、ピークレベルランプがすっぽり隠れる深さまでウインドスクリーンをかぶせてください。

本体とウインドスクリーンに隙間ができないようにかぶせてください。隙間があると効果がありません。



LCF(Low Cut)を設定する

プロジェクターの風切音などのノイズを低減するには、メニューで、「LCF(Low Cut)」(ローカットフィルター)を有効に設定します。

BACK/HOMEボタンを1秒以上押し、ホームメニューを表示し、「 各種設定」→「録音設定」→「LCF(Low Cut)」を選び、▶ボタンを押します。

ご注意

- XLR/TRSジャックに機器を接続している場合、左右いずれかまたは両方のXLR/TRS INPUT LEVELスイッチが「LINE」の位置になっていると、LCF(Low Cut)機能が働きます。
- MIC IN/LINE INジャックに外部機器を接続している場合、MIC/LINE INPUT LEVELスイッチが「LINE」の位置になっていると、LCF(Low Cut)機能が働きます。

リミッターを設定する

突発的に大きな音の入力があった場合に音のひずみを防ぐには、メニューで「リミッター」を有効に設定します。

BACK/HOMEボタンを1秒以上押し、ホームメニューを表示し、「 各種設定」→「録音設定」→「リミッター」を選び、▶ボタンを押します。

ご注意

- XLR/TRSジャックに機器を接続している場合、左右いずれかまたは両方のXLR/TRS INPUT LEVELスイッチが「LINE」の位置になっていると、リミッター機能が働きます。
- MIC IN/LINE INジャックに外部機器を接続している場合、MIC/LINE INPUT LEVELスイッチが「LINE」の位置になっていると、リミッター機能が働きます。

高S/Nモードを設定する

ダイナミックレンジが広くて録音レベルを上げられない音源を録音するときは、高S/Nモードが有効です。小さな録音レベルでもノイズを抑えて録音することができます。この機能をお使いになるには、メニューで「高S/Nモード」を有効に設定します。

BACK/HOMEボタンを1秒以上押し、ホームメニューを表示し、「 各種設定」→「録音設定」→「高S/Nモード」を選び、▶ボタンを押します。

ご注意

リミッター機能を有効にしている場合、高S/Nモードの設定は無効になります。

ピークホールドを設定する

入力信号の最大値(ピーク値)を保持するかどうかを設定します。

BACK/HOMEボタンを1秒以上押し、ホームメニューを表示し、「 各種設定」→「録音設定」→「ピークホールド」を選び、▶ボタンを押します。

「マニュアル」を選んだ場合は、ピーク値の下に「PEAK」が表示され、ピーク値をリセットするまで保持されます。



ピーク値をリセットして、新たにピーク値を保持したい場合は、録音中または録音停止中にオプションメニュー→「ピークリセット」を選んでください。

「オート」を選んだ場合、ピーク値は一定時間ごとにもリセットされます。

メモリーを切り替えて録音を続けるには(クロスメモリー録音)

内蔵メモリーまたはSDカードの残量が録音途中でなくなった場合でも、自動的にもう一方のメモリーに切り替えて録音を続けることができます。

- 1 停止中に、BACK/HOMEボタンを1秒以上押し、ホームメニューを表示し、「 各種設定」→「録音設定」→「クロスメモリー録音」を選び、▶ボタンを押します。「クロスメモリー録音」画面が表示されます。
- 2 ▲または▼ボタンで「オン」を選び、▶ボタンを押します。
- 3 録音を開始します。

録音中にメモリーがいっぱいになると、表示窓に「メモリーを切り換えて録音を継続します」と表示され、クロスメモリー用の「CROSS_MEM」フォルダに、新しいファイルとして続いて録音されます。

新しいファイルは、新しいファイル名で作成されます。

ご注意

- 切り替え先のメモリーもいっぱいでは録音できないときは、メッセージが表示され、録音が停止します。
- 録音中にリニアPCMレコーダーにSDカードを挿入しても、クロスメモリー録音は行われません。
- クロスメモリー録音で録音した場合、メモリー切り替え後の音声の一部が音切れする場合があります。
- 長時間録音する場合は、リニアPCMレコーダーにUSB ACアダプターをつないで使用してください。

ヒント

クロスメモリー録音で録音されたファイルを再生するときは、ファイルの検索方法で「録音日で探す」を選択してください。ファイルが並んで表示されるため、続けて再生することができます。

自動的にトラックマークを付けるには

録音時に、トラックマーク(59 ページ)をお好みの間隔で自動的に付けることができます。

- 1 BACK/HOMEボタンを1秒以上押し、ホームメニューを表示し、「 各種設定」→「録音設定」→「自動トラックマーク」を選び、▶ボタンを押します。
- 2 「間隔設定」を選び、トラックマークを付ける間隔(5分、10分、15分、30分)を設定します。
- 3 「時刻情報」を選び、「時刻情報を入れる」を有効にします。

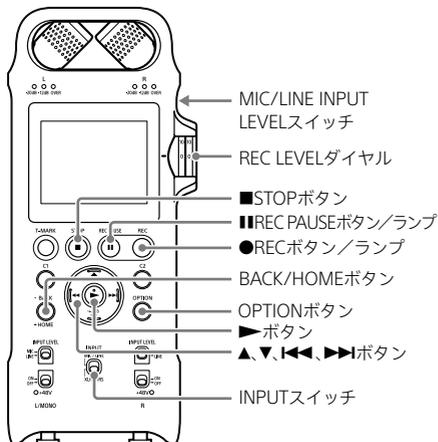
自動トラックマークが付いたときの時刻の情報を、トラックマークに入れることができます。長時間録音するときに設定しておく、録音ファイルの再生時に、トラックマークが付けられた時刻から目的の位置を探すことができるため便利です。

ヒント

トラックマークは、オプションメニューの「トラックマーク一覧」で確認することができます。

録音する

内蔵マイクや外部マイクを使って録音したり、外部機器のライン出力からの信号を録音します。



内蔵マイクを使って録音する

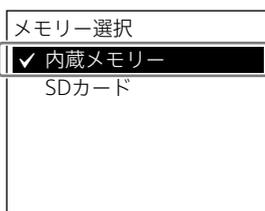
ここでは、内蔵マイクを使って、内蔵メモリーに録音する手順について説明します。

- 1 「録音前の準備」(27 ページ)を参照して、内蔵マイクや本体を設置します。
- 2 INPUTスイッチを「MIC/LINE」に合わせます。
- 3 ホームメニュー (22 ページ)で「録音」を選び、▶ボタンを押します。録音停止画面が表示されます。
- 4 録音を保存したいメモリー (内蔵メモリーまたはSDカード)とフォルダを選びます。(37 ページ)

SDカードに録音したい場合は、メモリーの切り替えが必要です。

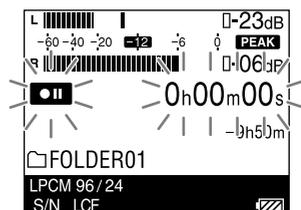
録音停止中にオプションメニュー→「録音先フォルダ」を選び、「メモリー選択」で「SDカード」を選択してから録音を始めてください。

選択しているメモリー



- 5 ●RECボタンを押します。

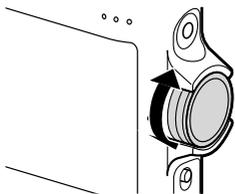
録音スタンバイ状態になり、表示窓の●||と経過時間表示が点滅します。



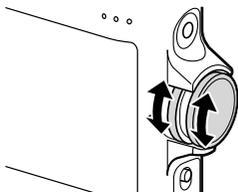
録音する(つづき)

- 6 REC LEVELダイヤルを前後に回し、表示窓のピークレベルメーターを見ながら、録音レベルを調節します。

ダイヤルを回すと、左右両方のチャンネルの録音レベルが同期して調整されます。



左右のチャンネルの録音レベルのバランスを変えたい場合は、外側のダイヤルを引っ張り、内側のダイヤルと離してください。外側のダイヤルで右のチャンネル、内側のダイヤルで左のチャンネルの録音レベルを調節できます。



録音中は録音レベルがピークレベルメーターに表示されます。

録音レベルは、表示窓のピークレベルメーターと、ピークレベルランプの両方で確認できます。録音レベルは-12 dBを目安に、音源に合った適切な範囲で調整してください。

ご注意

内蔵マイクの向きがX-Yポジションの場合、REC LEVELダイヤルの外側のダイヤルを回すと左のチャンネル、内側のダイヤルを回すと右のチャンネルの録音レベルが調節されます。

ヒント

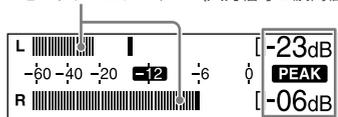
オプションメニューから録音モードを変更することもできます。録音停止中にOPTIONボタンを押してオプションメニューを表示し、「録音モード」を選んでお好みの録音モードを設定してください。(64 ページ) お買い上げ時は、LPCM 44.1 kHz/16 bitに設定されています。

表示窓のピークレベルメーターで確認する場合

打楽器などの立ち上がりの早い音は、ピークレベルメーターでレベルを確認してください。最大ピーク値が表示されます。

最大ピーク値に **OVER** と表示されると、ひずみが発生する場合があります。

ピークレベルメーター (入力信号の波高値)

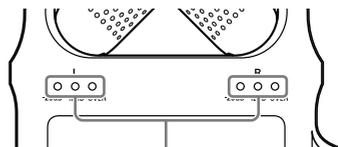


最大ピーク値

ピークレベルランプで確認する場合

左右各チャンネルの入力信号のレベルに応じて、ランプが点灯します。

OVERランプが赤く点灯すると(録音レベルが-1 dB以上のとき)、ひずみが発生する場合があります。



ピークレベルランプ

-20dB (緑) : ひずまない録音レベル (-20 dB) です。

-12dB (橙) : ひずまない録音レベル (-12 dB) です。

OVER (赤) : -1 dB以上になっています。録音レベルを下げてください。

- 7 録音を開始するには、**REC PAUSE** ボタン(または **▶** ボタン)を押します。録音スタンバイ状態が解除され、録音が始まります。録音中は、表示窓に **REC** が点灯します。

録音を一時停止するには

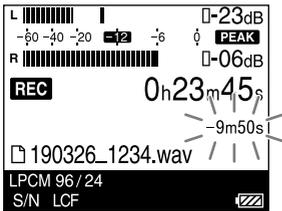
録音中に **REC PAUSE** ボタンを押します。表示窓の **||** と経過時間表示が点滅します。もう一度押すと、録音が始まります。録音を再開するときは、必ずもう一度 **REC PAUSE** ボタンを押してください。

録音を停止するには

■ **STOP** ボタンを押します。

録音可能残り時間の表示について

録音中に録音可能な残り時間が10分未満になると、録音可能時間表示が点滅します。



残り時間がなくなると、「メモリー一杯です」と表示され、録音が停止します。

ご注意

- 録音中や録音一時停止中は、電池やUSB ACアダプターを外したり、SDカードを抜いたりしないでください。データが破損する恐れがあります。
- 停止状態のまましばらく操作しないと、画面が消灯し、低消費電力モードになります。ただし、電力は少量でも消費されていますので、お使いにならない場合は電源をお切りください。録音一時停止状態のときは、低消費電力モードになりません。
- 録音中に、リニアPCMレコーダーにパソコンを接続しないでください。接続すると、パソコンとの通信を優先するため、録音が停止します。
- 録音の途中でファイルサイズの上限（LPCMは4 GB、MP3は1 GB）を超えてしまう場合は、ファイルが分割されます。
- 分割された位置の前後で音切れが発生する場合があります。1ファイル最大録音可能時間は、90ページをご覧ください。

録音中の音を聞く(録音モニター)

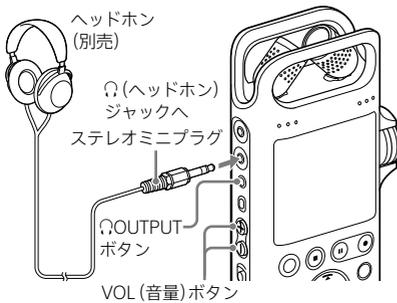
別売のヘッドホンやイヤホンを Ω (ヘッドホン) ジャックに接続すると、録音中の音をモニターできます。モニター音は、VOL (音量) ボタンで調節できます。

また、 Ω OUTPUT ボタンを押すと、ボタンを押すたびにヘッドホンに出力する音声を以下のように切り替えることができます。

STEREO : 音声をステレオで出力します。

L : 左チャンネルの音声のみを出力します。ヘッドホンのL/R両方から、左チャンネルの音を聞くことができます。

R : 右チャンネルの音声のみを出力します。ヘッドホンのL/R両方から、右チャンネルの音を聞くことができます。

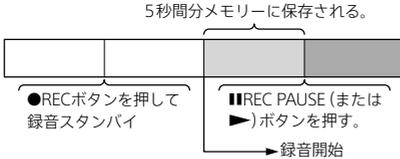


ご注意

- 録音モニター中に音量を上げすぎたり、ヘッドホンを本体に近づけすぎたりすると、ヘッドホンの音をマイクが拾い、ピーツという音(ハウリング)が生じることがあります。
- 録音モニターには、音漏れの少ない密閉型ヘッドホンを使用することをおすすめします。
- Bluetooth機能で接続したヘッドホンでは、録音中の音を確認することができません。

少し前から録音する(プリレコーディング機能)

録音開始操作の約5秒前の音から録音を開始することができます。インタビューや野外録音など、急な録音機会を逃したくない場合に便利です。



1 BACK/HOMEボタンを1秒以上押して、ホームメニューを表示し、「 録音」を選び、▶ボタンを押します。

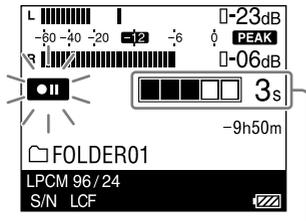
録音停止画面が表示されます。

2 OPTIONボタンを押してオプションメニューを表示し、「プリレコーディング」を選び、▶ボタンを押します。

3 ▲または▼ボタンで「オン」を選び、▶ボタンを押します。

4 ●RECボタンを押します。

録音スタンバイ状態になり、表示窓に が点滅します。最新の約5秒間分の音声メモリーに一時保存されます。



保存される秒数

5 録音するには (または▶ボタン)を押します。

録音スタンバイ状態が解除され、録音が始まります。録音を開始した時点より最大5秒前の音から録音します。

ご注意

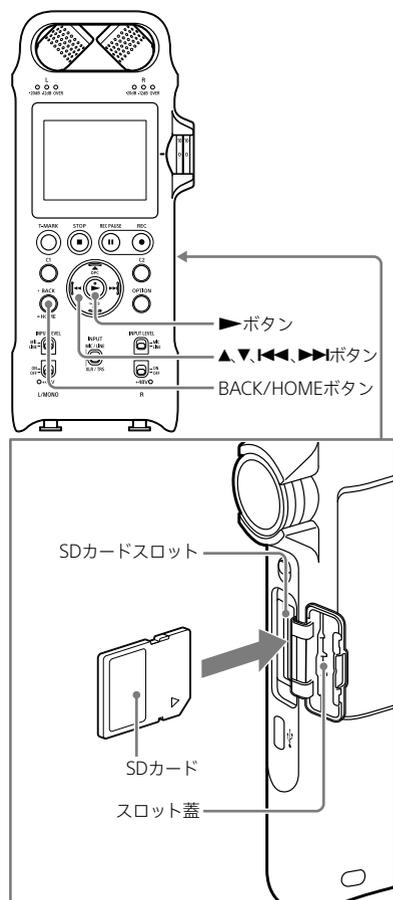
- 内蔵マイクを使ってプリレコーディングをしようとすると、 ボタンを押すときに雑音が入る場合があります。プリレコーディングをする場合は外部マイクを使うか、REC Remoteを使って録音することをおすすめします。
- 録音を開始せずにプリレコーディングを停止した場合、プリレコーディング時にメモリーに蓄積された音声は保存されません。

ヒント

プリレコーディング機能を解除するには、手順3で「プリレコーディング」を「オフ」にします。

SDカードに録音する

リニアPCMレコーダーでは、内蔵メモリーの他に、別売のSDカードを使って音声を記録できます。



SDカードを入れる

録音する前に、SDカードに保存されているデータをパソコンに保存し、リニアPCMレコーダーで初期化(70 ページ)して空の状態にしてからお使いください。

- 1 停止中に、SDカードをSDカードスロットにカチッと音がするまでしっかり差し込みます。

SDカードの端子面が本体表側になるように、図の方向に差し込んでください。

- 2 スロット蓋を閉めます。

表示窓に「しばらくお待ちください」と表示されて、動作に必要な情報を読み込みます。

表示窓に「録音先フォルダをSDカードに変更しますか?」と表示されます。

- 3 ◀◀または▶▶ボタンを押して「はい」を選び、▶ボタンを押します。

- 4 ▲または▼ボタンを押して保存したいフォルダを選び、▶ボタンを押して決定します。

- 5 ●RECボタンを押して録音を開始します。

ご注意

SDカードは、録音や再生、ファイルの編集などを行っていないときに差し込んでください。

リニアPCMレコーダーで使用できるSDカード

リニアPCMレコーダーでは、以下のSDカードをお使いになれます。

- SDカード(～2 GB)
- SDHCカード(4 GB～32 GB)
- SDXCカード(48 GB以上)

最新の動作確認済みSDカードについては、リニアPCMレコーダー「サポート・お問い合わせ」ページ<https://www.sony.jp/support/ic-recorder/>をご覧ください。

SDカードに記録できるファイルのサイズはリニアPCMレコーダーの仕様上、1ファイルにつきLPCMファイルは4 GB未満、MP3は1 GB未満です。

ご注意

対応仕様のSDカードでも、すべてのSDカードでの動作を保証するものではありません。

SDカードを取り出すには

表示窓に「しばらくお待ちください」と表示されていないことを確認して、SDカードを一度奥に押しします。手前に出てきたら、SDカードスロットから取り出します。

ご注意

録音/再生中は、SDカードを抜き差ししたり、電池を取り出したり、USB ACアダプターを抜いたり、USB Type-Cケーブルを抜き差ししたりしないでください。データが破損する恐れがあります。

録音先メモリーを後から変更するには

- 1 録音停止中にOPTIONボタンを押してオプションメニューを表示し、「録音先フォルダ」を選びます。
「メモリー選択」画面が表示されます。
- 2 ▲または▼ボタンを押して、「内蔵メモリー」または「SDカード」を選び、▶ボタンを押します。
選択したメモリー内にあるフォルダが表示されます。
- 3 ▲または▼ボタンを押してフォルダを選び、▶ボタンを押します。

フォルダとファイル構成について

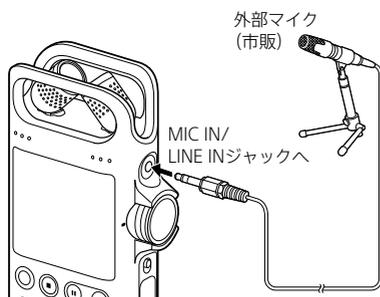
フォルダとファイルの構成は、内蔵メモリーとSDカードでは異なります。(44 ページ)

接続して録音する

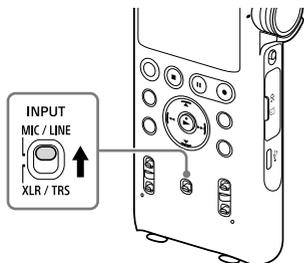
外部マイクをMIC IN/LINE INジャックに接続して録音する

市販の外部マイクをリニアPCMレコーダーのMIC IN/LINE INジャックに接続して録音します。

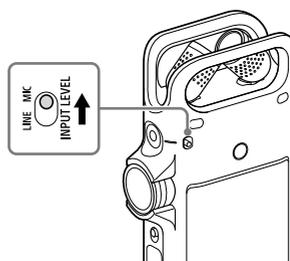
- 1 外部マイクをリニアPCMレコーダーのMIC IN/LINE INジャックに接続します。マイクの設置位置を調節します。マイクの特性については、マイクに付属の取扱説明書をご覧ください。



- 2 INPUTスイッチを「MIC/LINE」の位置に合わせます。



- 3 MIC/LINE INPUT LEVELスイッチを「MIC」の位置に合わせます。「プラグインパワー」設定画面が表示されます。「プラグインパワー」対応のマイクをご使用の場合は、「オン」を選ぶとリニアPCMレコーダーからマイクに電源が供給されます。「オフ」を選んだ場合は、プラグインパワー機能は動きません。



- 4 「内蔵マイクを使って録音する」(31 ページ)の手順3から7を行い、録音を始めます。

ご注意

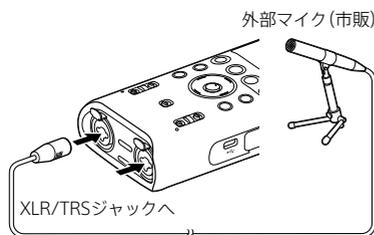
MIC IN/LINE INジャックに外部マイクを接続しているときは、内蔵マイクでの録音はできません。

外部マイクをXLR/TRSジャックに接続して録音する

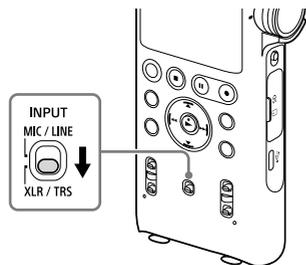
市販の外部マイクをリニアPCMレコーダーのXLR/TRSジャックに接続して録音します。

- 1 ファンタム電源スイッチを「OFF」の位置に合わせます。
- 2 外部マイクをリニアPCMレコーダーのXLR/TRSジャックに接続します。
ステレオで録音する場合は、L/R両方のXLR/TRSジャックに接続し、モノラルで録音する場合は、L側のXLR/TRSジャックに接続してください。

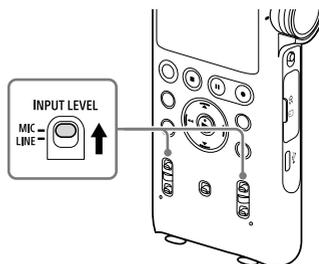
マイクの設置位置を調節します。マイクの特徴については、マイクに付属の取扱説明書をご覧ください。



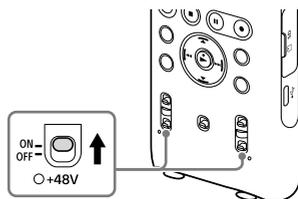
- 3 INPUTスイッチを「XLR/TRS」の位置に合わせます。



- 4 XLR/TRS INPUT LEVELスイッチを「MIC」の位置に合わせます。
L/R両方のXLR/TRSジャックに外部マイクを接続した場合は、左右のスイッチを切り替えてください。



- 5 ファンタム電源対応の外部マイクを使用する場合は、ファンタム電源スイッチを「ON」の位置に合わせます。
接続した外部マイクに電源が供給されます。



- 6 「内蔵マイクを使って録音する」(31ページ)の手順3から7を行い、録音を始めます。
- 7 モノラルで録音する場合は、録音停止中にOPTIONボタンを押してオプションメニューを表示し、「ステレオ/モノラル」→「モノラル(L)」を選び、▶ボタンを押します。

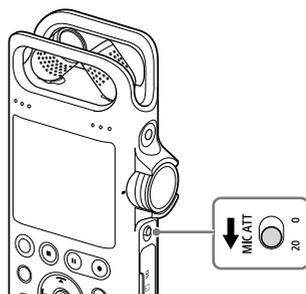
ご注意

- XLR/TRSジャックに機器を接続している場合、左右いずれかまたは両方のXLR/TRS INPUT LEVELスイッチが「LINE」の位置になっていると、リミッター機能とLCF(Low Cut)機能が働きます。
- 外部マイクや外部機器の取り付け/取り外しを行うときは、必ずファンタム電源スイッチを「OFF」の位置に合わせてください。「ON」のままケーブルの抜き差しを行うと、大きなノイズが出たり、外部機器が故障したりする可能性があります。
- ファンタム電源スイッチを「ON」の位置に合わせていると、リニアPCMレコーダーの電池の消費が大きくなります。ファンタム電源対応の外部マイクを使用しない場合は、ファンタム電源スイッチを「OFF」の位置に合わせてください。

マイクの音量を瞬時に下げる(マイクアッテネート)

内蔵マイクや外部マイクの入力レベルが大きいたときは、MIC ATTスイッチを「20」の位置に合わせてください。入力レベルを約20 dB下げることができます。

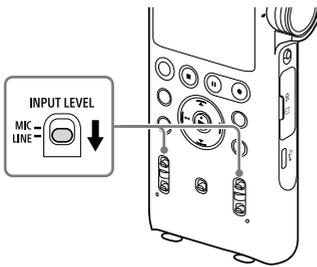
- 1 外部マイクを接続して録音する場合は、お使いの機器に合わせてINPUTスイッチを切り替えます。
MIC IN/LINE INジャックに接続する場合は「MIC/LINE」、XLR/TRSジャックに接続する場合は「XLR/TRS」の位置に合わせてください。
- 2 MIC/LINE INPUT LEVELスイッチまたはXLR/TRS INPUT LEVELスイッチを「MIC」の位置に合わせます。
- 3 MIC ATTスイッチを「20」の位置に合わせます。



XLR/TRSジャックに接続した外部機器からLINE入力で録音する

XLR/TRSジャックに外部機器を接続して、LINEで入力した音声を録音することもできます。

- 1 外部機器の音声出力端子とリニアPCMレコーダーのXLR/TRSジャックを、市販の音声ケーブルを使って接続します。
- 2 INPUTスイッチを「XLR/TRS」の位置に合わせます。
- 3 XLR/TRS INPUT LEVELスイッチを「LINE」の位置に合わせます。

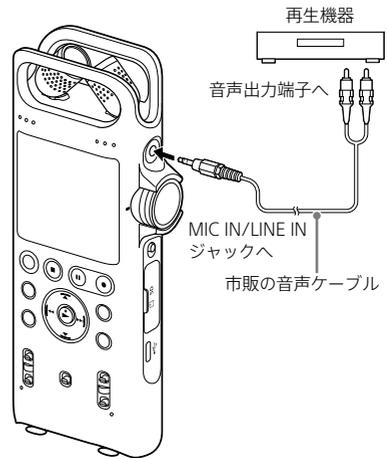


- 4 「内蔵マイクを使って録音する」(31ページ)の手順3から6を行います。
- 5 外部機器の再生を始めます。
- 6 録音を開始したいところで、**II** REC PAUSEボタン(または▶ボタン)を押します。
録音スタンバイ状態が解除され、録音が始まります。

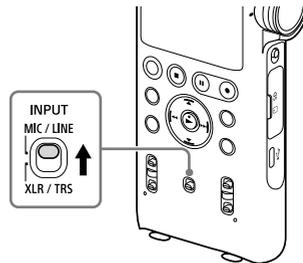
MIC IN/LINE INジャックに接続した外部機器からLINE入力で録音する

CDプレーヤー、MDプレーヤー、DATレコーダーなどの外部機器で再生した音源を録音します。

- 1 外部機器の音声出力端子とリニアPCMレコーダーのMIC IN/LINE INジャックを、市販の音声ケーブルを使って接続します。

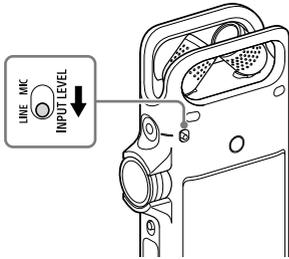


- 2 INPUTスイッチを「MIC/LINE」の位置に合わせます。



接続して録音する(つづき)

- MIC/LINE INPUT LEVELスイッチを「LINE」に合わせます。

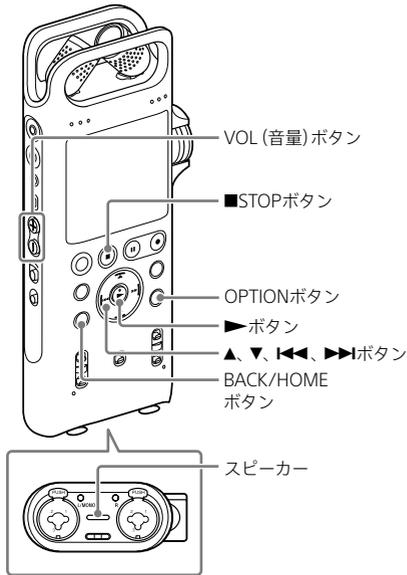


- 「内蔵マイクを使って録音する」(31ページ)の手順3から6を行います。
- 外部機器の再生を始めます。
- 録音を開始したいところで、**REC PAUSE**ボタン(または**▶**ボタン)を押します。
録音スタンバイ状態が解除され、録音が始まります。

ご注意

MIC IN/LINE INジャックに外部機器を接続してLINE入力
で録音するときは、リミッター機能とLCF(Low Cut)機能が
働きません。

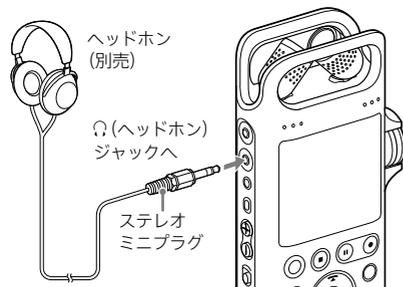
再生する



ヘッドホンで聞くには

別売のヘッドホンまたはイヤホンをリニアPCMレコーダーの○ (ヘッドホン) ジャックに接続します。

○ OUTPUTボタンを押すと、ヘッドホンに出力する音声を切り替えることができます。詳しくは、34 ページをご覧ください。

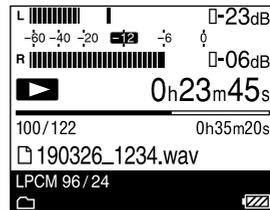


1 ホームメニューから再生したいファイルを選びます (25 ページ)。

2 ▶ ボタンを押します。

再生が始まります。

表示窓に ▶ が点灯します。再生範囲内の最後のファイルまで、ファイルの番号順に再生します。



3 VOL (音量) ボタンで音量を調節します。

4 再生を止めるには、■ ボタンを押します。

内蔵スピーカーで聞くには

1 ヘッドホンやイヤホンをリニアPCMレコーダーから取り外します。

2 ホームメニューから再生したいファイルを選びます (25 ページ)。

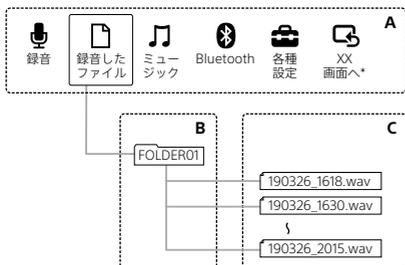
3 ▶ ボタンを押します。

4 VOL (音量) ボタンで音量を調整します。

フォルダとファイルについて

リニアPCMレコーダー上で見えるフォルダとファイルの構成

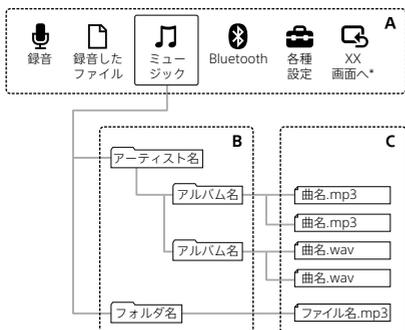
「📁 録音したファイル」の場合



A: ホームメニュー B: フォルダ C: ファイル

* XXには、現在使用している機能が表示されます。

「🎵 ミュージック」の場合



A: ホームメニュー B: フォルダ C: ファイル

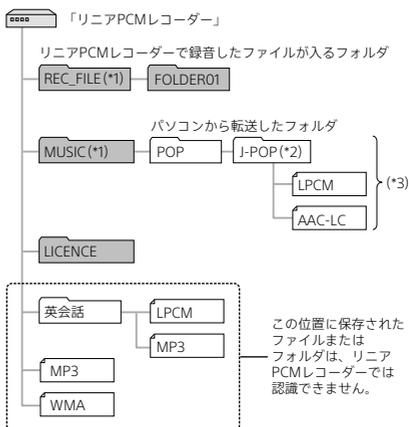
* XXには、現在使用している機能が表示されます。

パソコン上で見えるフォルダとファイルの構成

リニアPCMレコーダーをパソコンに接続すると、フォルダやファイルの構成をパソコンの画面で見ることができます。WindowsではExplorerを使って、MacではFinderを使って、「PCMRECORDER」または「MEMORY CARD」を開くと、フォルダやファイルを表示できます。

パソコンの画面で見ると、次の図のように表示されます。

内蔵メモリーの場合



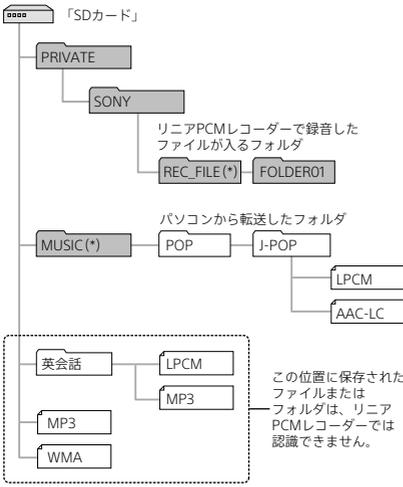
- *1 REC_FILEフォルダの中のファイルが、「📁 録音したファイル」に表示されるファイルです。MUSICフォルダの中のファイルが、「🎵 ミュージック」に表示されるファイルです。ファイルを転送するときは、REC_FILEフォルダ内またはMUSICフォルダ内に入れてください。
- *2 音楽ファイルが保存されたフォルダ名はリニアPCMレコーダーでも同じフォルダ名として表示されます。管理しやすいフォルダ名にしておくとう便利です。(図は、フォルダ名称の例です。)
- *3 音楽ファイルを認識できるのは、リニアPCMレコーダーに転送したフォルダの8階層目までとなります。

ヒント

- パソコンにある音楽ファイルをリニアPCMレコーダーに転送するときは、あらかじめタイトルやアーティストなどの情報を登録しておくとう便利です。
情報を登録すると、リニアPCMレコーダーで音楽ファイルの情報を表示したり、登録した情報から音楽ファイルを検索したりすることができます。
- タイトル名が登録されていない場合は、リニアPCMレコーダーではファイル名が表示されます。

SDカードの場合

ファイルの保存先がSDカードの場合、内蔵メモリーの場合とはフォルダの構成が異なります。



* REC_FILEフォルダの中のファイルが、「録音したファイル」に表示されるファイルです。MUSICフォルダの中のファイルが、「ミュージック」に表示されるファイルです。ファイルを転送するときは、REC_FILEフォルダ内またはMUSICフォルダ内に入れてください。

その他の方法で再生する

録音直後に再生するには

録音を停止したあとに、録音停止画面で▶ボタンを押します。

再生中に早送り／早戻しする (キュー／レビュー)

再生停止中／再生中に、◀◀ (早戻し・レビュー) ボタンまたは▶▶ (早送り・キュー) ボタンを押したままにして、聞きたいところで離します。

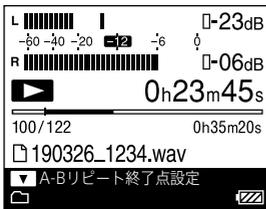
ヒント

最初は少しずつ早送り／早戻しされるので、1語分だけ戻したり、送ったりして聞きたいときに便利です。押し続けると、高速での早送り／早戻しになります。

必要な部分だけを再生する(A-Bリピート)

指定したA点とB点の区間を繰り返し再生します。

- 1 再生停止中／再生中に、▼↔ A-Bボタンを押して、A点を指定します。



- 2 もう一度▼↔ A-Bボタンを押して、B点を指定します。
指定した区間が繰り返し再生されます。
- 3 通常の再生に戻すには、▼↔ A-Bボタンをもう一度押します。

ご注意

再生停止中、A点を指定したあと、同じ場所にB点を指定することはできません。この場合、A点がキャンセルされます。

簡単に1ファイルをリピート再生する

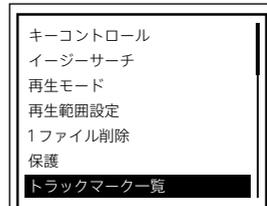
再生中に▶ボタンを長押しするだけで、簡単に再生中のファイルをリピート再生することができます。機能を解除する場合は、▶ボタンまたは■停止ボタンを押してください。

ヒント

- 再生モードを設定している場合でも、長押しリピート再生機能を使うことができます。
- A-Bリピート再生中は、長押しリピート再生機能を使うことができません。

トラックマーク一覧から目的の再生位置を探す

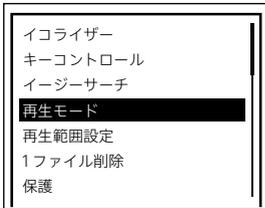
トラックマーク一覧に表示されたトラックマークから、目的の再生位置を簡単に探すことができます。



再生停止中／再生中に、オプションメニュー→「トラックマーク一覧」→目的のトラックマークを選びます。

再生モードを変える

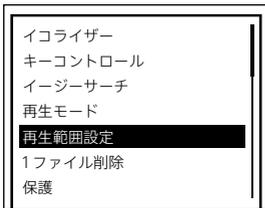
用途に応じて、1ファイルのみの再生やリピート再生などの再生モードを選べます。(67 ページ)



再生停止中／再生中に、オプションメニュー → 「再生モード」→お好みの設定を選びます。

再生範囲を指定する

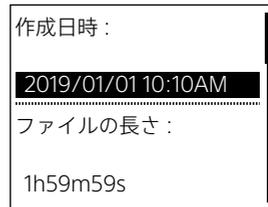
「 録音したファイル」からファイルの検索方法（「最新の録音」、「録音日で探す」、「フォルダ」）を選択して、表示された再生リストの中から再生する範囲を指定できます。



- 1 再生停止中／再生中に、オプションメニュー → 「再生範囲設定」を選ぶ。
- 2 「全範囲を再生」または「 選択範囲内を再生」から選ぶ。(68 ページ)

ファイル情報を表示する

再生停止中にOPTIONボタンを押してオプションメニューから「ファイル情報」を選ぶと、現在選択されているファイルの作成日時、ファイルサイズ、録音モード、LCF(Low Cut)、リミッター設定などの様々な情報を表示することができます。画面は▲または▼ボタンでスクロールすることが可能です。



聞きたいところをすばやく探す (イージーサーチ機能)

イージーサーチ機能を使うと、再生を開始したい場所をすばやく見つけることができます。また、早送り／早戻しの間隔を設定することで、会議録音など長時間録音したものでも、聞きたいところをすばやく探すことができます。

- 1 再生、または再生停止中に、OPTIONボタンを押してオプションメニューを表示し、「イージーサーチ」を選び、▶ボタンを押します。
- 2 ▲または▼ボタンで「オン」を選び、▶ボタンを押します。間隔を設定したいときは「間隔設定」を選び、▶ボタンを押します。
「オン」を選んだときは、設定画面が終了します。
「間隔設定」を選んだときは、次の手順に進んでください。
- 3 「間隔設定」を選んだときは、▲または▼ボタンで「イージーサーチ送り」または「イージーサーチ戻し」を選び、▶ボタンを押します。
- 4 ▲または▼ボタンで早送り、早戻しの間隔を選び、▶ボタンを押します。
- 5 他の間隔も選ぶ場合は、▶ボタンを押して手順3から4を繰り返します。
- 6 ▲または▼ボタンで「オン」を選び、▶ボタンを押します。

イージーサーチ機能を「オン」にすると

再生中に◀◀または▶▶ボタンを短押しすると、再生位置が、設定した間隔で前後にすばやく移動します。

再生音質を選ぶ

音質を切り替える(イコライザー)

- 1 ホームメニューから再生したいファイルを選びます(25 ページ)。
- 2 再生または再生停止中に、OPTIONボタンを押してオプションメニューを表示し、「イコライザー」を選び、▶ボタンを押します。
- 3 ▲または▼ボタンで音質を選び、▶ボタンを押します。

オフ*	イコライザー機能を無効にします。
オン	イコライザー機能を有効にします。
カスタム	5バンドのサウンドレベルを自由に設定できます。

* お買い上げ時は「オフ」に設定されています。

ご注意

内蔵スピーカー、Bluetoothオーディオ機器、またはLINE OUTジャックに接続した外部機器から再生しているときは、イコライザー機能は動きません。

音質をカスタム設定するには

手順3で「カスタム」を選び、カスタム設定画面を表示します。◀◀または▶▶ボタンで100 Hz、300 Hz、1 kHz、3 kHzまたは10 kHzの周波数帯のレベルを選び、▲または▼ボタンでレベルを調節します。

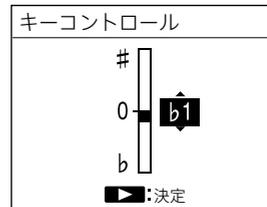
-3~+3の7段階に設定できます。

▶ボタンを押すと設定が有効になります。

音程を調節する(キーコントロール)

再生音の音程は、半音ずつ上下に13段階に調節して、再生することができます。伴奏に合わせて歌を練習するときなどに便利です。

- 1 ホームメニューから再生したいファイルを選びます(25 ページ)。
- 2 再生、または再生停止中に、OPTIONボタンを押してオプションメニューを表示し、「キーコントロール」を選び、▶ボタンを押します。
- 3 ▲または▼ボタンで音程を選び、▶ボタンを押します。
#1~#6 (#1刻み)、0*、b1~b6 (b1刻み)の13段階で調節できます。



* お買い上げ時は「0」に設定されています。

再生音質を選ぶ(つづき)

再生速度を調節する(DPC)

DPC (Digital Pitch Control) 機能を使うと、再生速度を0.25倍速から3.00倍速の間で調節できます。その際、音程はデジタル処理により、自然に近いレベルで再生されます。

- 1 ホームメニューから再生したいファイルを選びます(25 ページ)。
- 2 再生、または再生停止中に、▲DPC (速度調節) ボタンを押します。
- 3 ▲または▼ボタンで「オン」を選び、◀◀または▶▶ボタンで速度を選びます。
0.05倍速刻みで遅くする(×0.25~×1.00)
0.10倍速刻みで速くする(×1.00~×3.00)
ボタンを1秒以上押すと連続して設定できます。



お買い上げ時は「オフ」に設定されています。

- 4 ▶▶ボタンを押します。

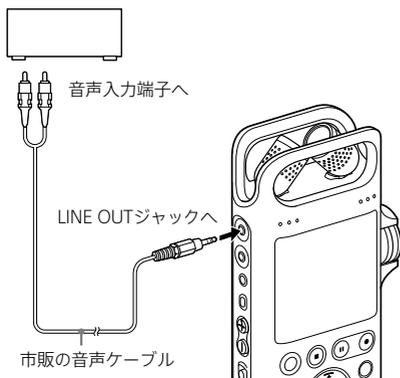
選択できる再生速度は以下の通りです。

1.00倍速~ 0.25倍速	サンプリング周波数 88.2 kHz以上のFLAC
2.00倍速~ 0.25倍速	サンプリング周波数 88.2 kHz未満のFLAC、サンプリング周波数 88.2 kHz以上のLPCM
3.00倍速~ 0.25倍速	上記以外

外部機器に接続して再生する

録音したファイルを外部機器のスピーカーから出力して聞くには、外部機器の音声入力端子とリアPCMレコーダーのLINE OUTジャックを市販の音声ケーブルを使って接続します。

AVアンプ/再生機器 (アナログ)



- 1 ホームメニューから再生したいファイルを選びます (25 ページ)。
- 2 ▶ ボタンを押します。
再生が始まります。

ご注意

LINE OUTジャックに音声ケーブルを接続して音声を出力しているときは、イコライザー機能が働きません。

ワイヤレスで音を聞く

Bluetoothオーディオ機器とリニアPCMレコーダーを接続して、音声をワイヤレスで聞くことができます。

録音中の音は、Bluetoothオーディオ機器からは聞くことができません。本体の○(ヘッドホン)ジャックに接続したヘッドホンから聞いてください。

機器登録(ペアリング)する

Bluetoothオーディオ機器同士をはじめワイヤレス接続するときは、お互いの機器を登録し合う必要があります。この登録のことを「ペアリング」といいます。

- 1 接続するBluetoothオーディオ機器をペアリングモードにします。
リニアPCMレコーダーを1m以内に置いてください。
- 2 再生停止中に、ホームメニュー (22ページ) → **Bluetooth** → 「オーディオ機器」を選びます。
オーディオ機器のメニュー画面が表示されます。

Bluetooth
Bluetoothオン/オフ
オーディオ機器
REC Remote
NFC設定
Bluetooth情報
オートスタンバイのご注意

- 3 「機器登録(ペアリング)」を選びます。
Bluetooth機能がオフになっている場合は、「Bluetoothをオンにしますか?」と表示されるので、「はい」を選び、▶ ボタンを押します。他のBluetoothオーディオ機器と接続中の場合は、「接続中のオーディオ機器を切断します。よろしいですか?」と表示されるので、「はい」を選んでください。

オーディオ機器
接続
切断
機器登録(ペアリング)
登録済みの機器の管理
ワイヤレス再生品質
音量操作設定

- 4 ▶ ボタンを押して、Bluetoothオーディオ機器の検索を開始します。
ペアリング可能なBluetoothオーディオ機器の検索が始まり、該当する機器の機種名が表示されます。
- 5 ペアリングしたいBluetoothオーディオ機器を選びます。
ペアリングが完了すると自動的に接続が行われ、「接続処理が完了しました」と表示されます。
- 6 リニアPCMレコーダーで再生します。
Bluetoothオーディオ機器で音声を聞くことができます。

ご注意

LINE OUTジャックに外部機器を接続している場合、接続したBluetoothオーディオ機器から同時に音声を出力することはできません。LINE OUTジャックに接続した外部機器への出力音声を確認する場合は、○(ヘッドホン)ジャックにヘッドホンをつないでください。

Bluetooth接続を切断する

ホームメニュー → **Bluetooth** → 「オーディオ機器」 → 「切断」を選びます。

Bluetoothヘッドホンと、本体に接続しているヘッドホンを切り替える

Bluetooth接続中は、○(ヘッドホン)ジャックに接続したヘッドホンからファイルの再生音は出ません。

本体に接続しているヘッドホンを使うときはBluetooth接続を切断してください。

ご注意

- 次のような場合は、機器登録(ペアリング)の情報が削除されます。再度ペアリングしてください。
 - どちらかの機器、または両方の機器を、設定初期化などでお買い上げ時の状態に戻してしまった場合。
 - 修理を行ったなど、機器登録(ペアリング)の情報が削除されてしまった場合。

また、リニアPCMレコーダーから機器登録(ペアリング)情報が削除され、相手機器にリニアPCMレコーダーのペアリング情報が残っている場合は、ペアリング情報を削除してから再度ペアリングしてください。

- Bluetooth機能をオンにしている場合は、電池の持続時間が大幅に短くなります。
 - リニアPCMレコーダーと接続するBluetoothオーディオ機器や通信環境、周囲の状況によっては、雑音が入ったり、音が途切れたりすることがあります。
 - Bluetooth無線技術では約10 mまでの距離で接続できますが、障害物(人体、金属、壁など)や電波状態によって、接続有効範囲は変動します。
 - リニアPCMレコーダーはBluetoothプロフィールとして、A2DP (Advanced Audio Distribution Profile) と AVRCP (Audio/Video Remote Control Profile) に対応しています。接続するBluetoothオーディオ機器のプロファイルが、A2DPに対応している必要があります。AVRCPに対応したBluetoothヘッドホンなどからリニアPCMレコーダーの基本操作を行うことができます。
 - ペアリングの接続処理中にパスキー*の入力画面が表示されたら、接続するBluetoothオーディオ機器のパスキーを確認し、入力してください。
 - 一度にペアリングできるのはひとつのBluetoothオーディオ機器のみです。複数の機器をペアリングするには、それぞれの機器を手順から行ってください。
 - 同じBluetoothオーディオ機器の名前が表示されたときは、ペアリングしたい機器のBDアドレスを確認してください。BDアドレスについては、お使いのBluetoothオーディオ機器の取扱説明書をご覧ください。
 - Bluetooth接続のオン/オフは、「**Bluetooth**」→「Bluetoothオン/オフ」で切り替えることもできます。
- *パスキーは、パスコード、PINコード、PINナンバー、パスワードなどと呼ばれる場合があります。リニアPCMレコーダーのパスキーは「0000」です。Bluetoothオーディオ機器のパスキーについては、お使いの機器の取扱説明書をご覧ください。

ワンタッチ接続(NFC接続)する

接続したいNFC機能搭載Bluetoothオーディオ機器に、リニアPCMレコーダーをタッチすると、ペアリングとBluetooth接続が行われます。

- Bluetoothオーディオ機器にNFCスイッチがある場合は、NFCスイッチをオンにします。
- リニアPCMレコーダーをBluetoothオーディオ機器にタッチします。リニアPCMレコーダーの**N**マーク部分を、Bluetoothオーディオ機器の**N**マーク部分にタッチします。リニアPCMレコーダーの画面に指示が出るまでタッチし続けてください。



- 画面の指示に従って接続を完了します。

ヒント

- 接続を解除するには、もう一度タッチします。
- 接続がうまくいかないときは次のことを行ってください。79ページも合わせてご確認ください。
 - リニアPCMレコーダーを、Bluetoothオーディオ機器の**N**マーク部分の上でゆっくり動かす。
 - NFC機能がオンになっているか確認する。ホームメニュー→「**Bluetooth**」→「NFC設定」→「オン」になっているか確認してください。

ご注意

- リニアPCMレコーダー背面の三脚取り付け穴に市販のカメラ用三脚を取り付けると、**N**マーク部分が隠れてワンタッチ接続がしづらくなります。三脚をお使いの際は、あらかじめワンタッチ接続を行ってから取り付けてください。
- 録音操作中(録音中、録音一時停止中、録音スタンバイ中)は、ワンタッチ接続をすることができません。録音停止状態であることを確認してから、接続を行ってください。

スマートフォンでリニアPCMレコーダーを操作する(REC Remote)

対応スマートフォンに専用アプリ「REC Remote」をインストールすると、Bluetooth機能を使って、スマートフォンからリニアPCMレコーダーの録音操作をすることができます。

リニアPCMレコーダーの位置を固定して離れたところから録音操作ができるため、操作時のノイズが録音されることもないので便利です。



REC Remoteのインストールや操作方法については、「**REC Remote (レックリモート)を使う**」(別冊)をご覧ください。

ご注意

- リニアPCMレコーダーをREC Remoteに接続するためには、最新のREC Remoteをインストールする必要があります。すでにREC Remoteをお使いの方も、必ず最新バージョンにアップデートしてください。
- REC Remoteは録音専用のアプリです。再生などの操作および録音時のモニター音には対応していません。
- 本機はREC Remoteから録音レベルの調整を行うことができません。REC LEVELダイヤルを使って調整してください。

機器登録(ペアリング)する

リニアPCMレコーダーとスマートフォンを接続して、機器登録(ペアリング)します。

Bluetooth
Bluetoothオン/オフ
オーディオ機器
REC Remote
NFC設定
Bluetooth情報
オートスタンバイのご注意

- リニアPCMレコーダーのホームメニュー(22ページ)→「Bluetooth」→「REC Remote」→「機器登録(ペアリング)」を選びます。
リニアPCMレコーダーのBluetooth機能がオフになっている場合は、リニアPCMレコーダーの画面に「Bluetoothをオンにしますか?」と表示されます。
- 「はい」を選択して、相手機器からのペアリング待ち状態にします。
- スマートフォンのBluetooth機能をオンにします。
- スマートフォンでREC Remoteを起動します。
- スマートフォンでPCM-D10を検索し、互いの機器を登録します。

スマートフォンのREC Remoteと本機の接続方法は、REC Remoteのヘルプをご確認ください。

ご注意

- 次のような場合は、機器登録(ペアリング)の情報が削除されます。再度ペアリングしてください。
 - どちらかの機器、または両方の機器を、設定初期化などでお買い上げ時の状態に戻ってしまった場合。
 - 修理を行ったなど、機器登録(ペアリング)の情報が削除されてしまった場合。
- また、リニアPCMレコーダーから機器登録(ペアリング)情報が削除され、相手機器にリニアPCMレコーダーのペアリング情報が残っている場合は、ペアリング情報を削除してから再度ペアリングしてください。

その他のBluetooth機能

Bluetooth機能のオン/オフを切り替える

Bluetooth機能のオン/オフを切り替えます。

Bluetooth
Bluetoothオン/オフ
オーディオ機器
REC Remote
NFC設定
Bluetooth情報
オートスタンバイのご注意

リニアPCMレコーダーのホームメニュー (22ページ) → 「Bluetooth」 → 「Bluetoothオン/オフ」 → 「オン」または「オフ」を選びます。

Bluetooth情報を表示する

Bluetooth機能のバージョンやプロフィールなどの情報を表示します。

Bluetooth
Bluetoothオン/オフ
オーディオ機器
REC Remote
NFC設定
Bluetooth情報
オートスタンバイのご注意

リニアPCMレコーダーのホームメニュー (22ページ) → 「Bluetooth」 → 「Bluetooth情報」を選びます。

ファイルを削除する

1 ファイルを選んで削除する

- 1 ホームメニューから削除したいファイルを選びます(25 ページ)。
- 2 再生、または再生停止中に、OPTIONボタンを押してオプションメニューを表示し、「1ファイル削除」を選び、▶ボタンを押します。
「削除しますか?」と表示され、確認のため、選んだファイルが再生されます。
- 3 ◀◀または▶▶ボタンで「はい」を選び、▶ボタンを押します。
ファイルが削除されます。

途中で削除をやめるには

手順3で「いいえ」を選び、▶ボタンを押します。

フォルダ内またはリスト内のファイルを一度に削除する

- 1 削除したいファイルを含むフォルダまたはファイルリストを表示します。
(25 ページ)
- 2 OPTIONボタンを押してオプションメニューを表示し、「フォルダ内全削除」または「リスト内全削除」を選び、▶ボタンを押します。
「フォルダ内のファイルを全て削除しますか?」または「リスト内のファイルを全て削除しますか?」と表示されます。
- 3 ◀◀または▶▶ボタンで「はい」を選び、▶ボタンを押します。
フォルダ内またはリスト内の全ファイルが削除されます。

ご注意

- 一度削除したファイルはもとに戻すことはできません。
- 保護設定されているファイルは、削除できません。保護設定を解除してから操作してください。

ひとつのファイルの一部分だけ削除する

「ファイルを分割する」(60 ページ)で削除する部分としない部分に分け、削除したいファイルを選んでOPTIONボタンを押し、「1ファイル削除」を選びます。

フォルダを選んで削除する

ホームメニューから削除したいフォルダを選び(25 ページ)、OPTIONボタンを押して「フォルダ削除」を選びます。

ファイルを保護する

大事なファイルを間違っ
て削除、編集することが
ないように保護できます。
保護されたファイルには、**🔒** (保護) マークが表示され、削除、編集が
できない読み取り専用ファイルになります。

- 1** ホームメニューから保護したいファイルを選びます (25 ページ)。
- 2** 再生、または再生停止中にOPTIONボタンを押してオプションメニューを表示し、「保護」を選び、▶ ボタンを押します。
ファイルが保護されます。

保護を解除するには

手順2で保護されたファイルを選び、OPTIONボタンを押してオプションメニューを表示し、「保護解除」を選び、▶ ボタンを押します。

フォルダやファイルの名前を変更する

ホームメニューの「 録音したファイル」内のフォルダとファイルの名前を変更できます。

フォルダの場合はテンプレートから変更するフォルダ名を選べます。

ファイルの場合はテンプレートから文字や記号を選択して、ファイル名の先頭に追加できます。

- 1 ホームメニューの「 録音したファイル」から、名前を変更したいフォルダまたはファイルを選びます。(25 ページ)
- 2 OPTIONボタンを押してオプションメニューを表示し、「フォルダ名変更」または「ファイル名変更」を選びます。
- 3 テンプレートからお好みのフォルダ名またはファイル名の先頭に追加したい文字、記号を選びます。

ご注意

- 「 ミュージック」内のフォルダ／ファイルは、操作できません。
- 保護設定されているファイルは、操作できません。保護設定を解除してから操作してください(57 ページ)。
- パソコンを使用すると、フォルダ名やファイル名を任意のものに変更することもできます。

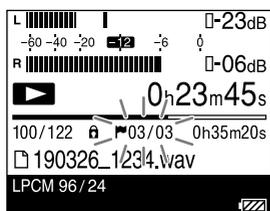
トラックマークを使う

トラックマークを付ける

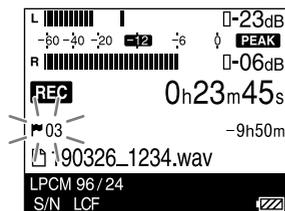
再生時の頭出しや、分割位置の目安として利用するために、トラックマークを付けることができます。1つのファイルに98個まで設定できます。録音中や再生中にトラックマークを付けたい場所でT-MARKボタンを押します。

▶(トラックマーク)表示が3回点滅し、トラックマークが設定されます。

再生時



録音時



トラックマークを付けた位置を探して聞くには

再生停止中に◀◀または▶▶ボタンを押します。

▶(トラックマーク)表示が1回点滅したら、▶ボタンを押します。

ご注意

保護されているファイルには、トラックマークが付けられません。保護設定を解除してから操作してください。

トラックマークを削除する

現在位置のトラックマークを削除します。

- 1 ホームメニューからトラックマークを削除したいファイルを選びます(25ページ)。
- 2 削除したいトラックマーク位置の後に停止します。
- 3 OPTIONボタンを押してオプションメニューを表示し、「トラックマーク削除」→「現在のトラックマーク」を選び、▶ボタンを押します。
- 4 「トラックマークを削除しますか?」と表示されたら、◀◀または▶▶ボタンで「はい」を選び、▶ボタンを押します。設定したトラックマークが削除されます。

途中で削除をやめるには

手順4で「いいえ」を選び、▶ボタンを押します。

すべてのトラックマークを削除するには

手順3でOPTIONボタンを押してオプションメニューを表示し、「トラックマーク削除」→「全てのトラックマーク」を選び、▶ボタンを押します。「トラックマークを全て削除しますか?」と表示されたら、◀◀または▶▶ボタンで「はい」を選び、▶ボタンを押します。選択したファイルのすべてのトラックマークが削除されます。

ご注意

保護設定されているファイルは、トラックマークを削除できません。保護設定を解除してから操作してください(57ページ)。

ファイルを分割する

現在位置で分割する

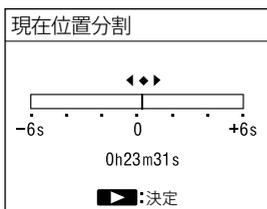
停止中にファイルを2つのファイルに分割することができます。1つのファイルが長時間になったときなどに、複数のファイルに分割しておくことで、再生したい場所がすばやく探せて便利です。

- 1 ホームメニューから録音したファイルを選び(25 ページ)、分割したい位置で停止します。
- 2 OPTIONボタンを押してオプションメニューを表示し、「分割」→「現在位置」を選び、▶ボタンを押します。

分割位置から約4秒間の繰り返し再生が始まります。

- 3 ◀◀または▶▶ボタンで希望する分割位置を確認し、▶ボタンを押します。

現在位置の前後約6秒間で約0.25秒単位での微調節が可能です。



- 4 「現在の停止位置で分割しますか?」と表示されたら、◀◀または▶▶ボタンで「はい」を選び、▶ボタンを押します。ファイルが分割されます。分割されたファイルは、新しいファイル名がつけます。

ファイル1	ファイル2_01	ファイル2_02
-------	----------	----------

▲
ファイルを分割

すべてのトラックマーク位置で分割する

トラックマークのある位置でファイルを分割できます。

- 1 ホームメニューから録音したファイルを選びます。
- 2 OPTIONボタンを押してオプションメニューを表示し、「分割」→「全てのトラックマーク位置」を選び、▶ボタンを押します。
- 3 「全てのトラックマーク位置で分割しますか?」と表示されたら、◀◀または▶▶ボタンで「はい」を選び、▶ボタンを押します。

すべてのトラックマークが削除され、トラックマークの位置でファイルが分割されます。

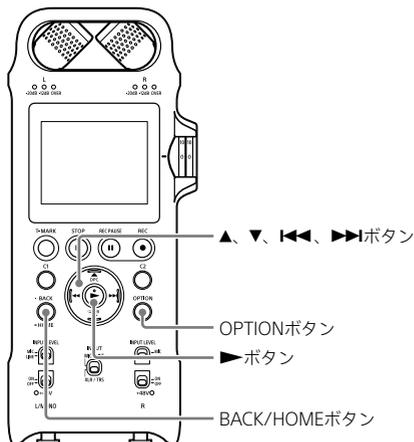
分割を中止するには

手順3で「いいえ」を選び、▶ボタンを押します。

ご注意

- ファイルの再生中は、ファイルを分割できません。
- 本機では、分割したファイルをつなげることはできません。「SOUND FORGE Audio Studio 12」を使うと、ファイルの分割、結合をすることができます。
- 分割したファイルには、ファイルの名の末尾にそれぞれ「_nn」が付きます (nnは01～99で重複しない数字)。
- 以下の場合、分割操作はできません。
 - リニアPCMレコーダーで録音したファイル以外のファイル
 - ファイルが保護設定されている場合
 - ファイルの開始/終了箇所から0.5秒未満の位置で操作する場合
 - フォルダ内の最大ファイル数に達した場合 (表示窓に「ファイルが一杯です」と表示されます。)
 - 新しいファイル名が最大文字数を超える場合
 - 分割後のファイル名と同じ名前のファイルが同じフォルダにある場合
 - ファイルの分割位置から前後0.5秒未満の位置にトラックマークが設定されているとき (「全てのトラックマーク位置」を選んで分割時のみ)
- 「現在位置」での分割実行時、ファイルの分割位置から前後0.5秒未満の位置にトラックマークが設定されているときは、トラックマークを削除してファイルを分割します。
- BWF形式のファイルとしては、分割元と同じ日時情報が記録されます。

フォルダ内のファイルを整理する (ファイル移動・ファイルコピー)



移動/コピーを中止するには

表示窓に「しばらくお待ちください」が表示されているときに、BACK/HOMEボタンを押します。「処理を中止しますか?」と表示されたら、◀▶または▶▶ボタンで「はい」を選び、▶ボタンを押します。

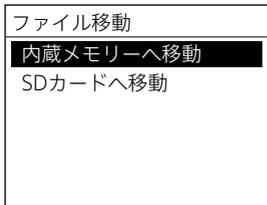
ご注意

- 「♪」ミュージック」内のファイルは、移動またはコピーできません。
- 保護されたファイルは移動できません。保護設定を解除してから移動してください。
- 移動すると、もとのフォルダからそのファイルはなくなります。
- コピーすると、ファイルは同じファイル名でコピーされます。

ファイルを移動/コピーする

選んだファイルをお好みのフォルダに移動またはコピーできます。

- 1 ホームメニューから移動またはコピーさせたいファイルを選びます (25 ページ)。
- 2 再生、または再生停止中に、OPTIONボタンを押してオプションメニューを表示し、「ファイル移動」または「ファイルコピー」を選び、▶ボタンを押します。
- 3 ▲または▼ボタンで移動先またはコピー先を選びます。



- 4 ▲または▼ボタンで、移動先/コピー先のフォルダを選び、▶ボタンを押します。

カスタムキー(C1/C2)に機能を登録する

良くお使いになる機能をカスタムキー(C1/C2)に登録することにより、キーを押すだけですぐに登録した機能を実行したり、設定画面を表示したりすることができます。

- 1 BACK/HOMEボタンを1秒以上押して、ホームメニューを表示し、「 各種設定」→「共通設定」→「カスタムキー設定」を選び、▶ボタンを押します。

「カスタムキー設定」画面が表示されます。

- 2 ▲または▼ボタンを押して、「C1:」または「C2:」を選び、▶ボタンを押します。

選択したカスタムキーに登録可能な機能の一覧リストが表示されます。

- 3 ▲または▼ボタンを押して、登録したい機能を選び、▶ボタンを押します。

選択した機能がカスタムキーに登録されます。
元に戻るにはBACK/HOMEボタンを押します。

ヒント

お買い上げ時には以下の機能が割り当てられています。

C1 : リミッター

C2 : LCF(Low Cut)

各種設定を変更する

メニュー	設定項目	設定内容(*: お買い上げ時の設定)
録音設定	録音先フォルダ	リニアPCMレコーダーで録音したファイルを保存するメモリーおよびフォルダを選びます (37 ページ)。
	フォルダ作成	フォルダを作成するメモリー(「内蔵メモリー」または「SDカード」)およびフォルダ名のテンプレートを選択して作成します。
	録音モード	録音する音声のファイル形式を選択します。 <ul style="list-style-type: none">• LPCM サンプリング周波数と量子化ビット数を選択します。 192 kHz/24 bit 176.4 kHz/24 bit 96 kHz/24 bit 96 kHz/16 bit 88.2 kHz/24 bit 88.2 kHz/16 bit 48 kHz/24 bit 48 kHz/16 bit 44.1 kHz/24 bit 44.1 kHz/16 bit*• MP3 320 kbps 128 kbps
		ヒント <ul style="list-style-type: none">• LPCM (WAV)形式で録音したファイルは、BWF (Broadcast Wave Format) に対応し、録音開始日時が記録されたファイルとなります。• サンプリング周波数とは、アナログ信号からデジタル信号への変換 (A/D 変換) を1秒間に何回行うかを表す数値です。数値が高いほど音質は向上し、データ量が増えますが、録音可能時間は短くなります。44.1 kHzでCD相当、48 kHzでDAT相当、96 kHzでDVD Audio相当の音質が得られます。• 量子化ビット数とは、1秒間の音声に与えるデータ容量を表す数値です。数値が高いほど多くのデータ容量が与えられ、音質が向上します。
	ステレオ/モノラル	録音時の音声入力に合わせて、ステレオまたはモノラルを設定します。 <ul style="list-style-type: none">• ステレオ*: ステレオ録音をするときに設定します。• モノラル(L): モノラル録音をするときに設定します。
	ピークホールド	入力信号の最大値(ピーク値)を保持するかどうかを設定します。 オート*: ピーク値は一定時間ごとにリセットされます。 マニュアル: 「ピークリセット」を行うまでは、ピーク値を保持します。

メニュー	設定項目	設定内容(*: お買い上げ時の設定)
録音設定	LCF(Low Cut)	<p>LCF(Low Cut)機能を有効にすると、以下の周波数の音声にフィルターをかけて、音声を減衰します。空調設備や屋外での風切音などによるノイズを軽減します。</p> <p>オフ*: LCF(Low Cut)機能は無効になります。</p> <p>75Hz: 75 Hz以下の周波数の音声を減衰します。</p> <p>150Hz: 150 Hz以下の周波数の音声を減衰します。</p> <p>ご注意</p> <ul style="list-style-type: none"> • XLR/TRSジャックに機器を接続している場合、左右いずれかまたは両方のXLR/TRS INPUT LEVELスイッチが「LINE」の位置になっていると、LCF(Low Cut)機能が働きません。 • MIC IN/LINE INジャックに外部機器を接続している場合、MIC/LINE INPUT LEVELスイッチが「LINE」の位置になっていると、LCF(Low Cut)機能が働きません。 <p>ヒント</p> <p>「75Hz」は録音の音質へ影響が少なくなるように設定されていますが、ノイズの種類によっては効果が少ない場合があります。その場合は「150Hz」をお試しください。</p>
	リミッター	<p>リニアPCMレコーダーでは、1チャンネルに2つのADコンバーターを使い、通常の音声とともに12 dB低い信号を常に確保しています。過大入力が発生した際には、その時点まで戻って録音データを差し替えます。アナログでは不可能なマイナスのリミッター時定数を実現し、音のひずみを防止します。</p> <div data-bbox="487 938 1003 1077" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>通常の回路</p> <p>リミッター回路 (-12 dB)</p> </div> <p>ここでは、リカバリーまでの時間を設定します。</p> <p>オフ*: リミッター機能は無効に設定されます。</p> <p>150ms: 約150 msでリミッター動作からリカバリーします。</p> <p>1sec: 約1秒でリミッター動作からリカバリーします。</p> <p>1min: 約1分でリミッター動作からリカバリーします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • リミッター回路とは、信号レベルを最大入力レベル以下に調整するための回路です。突然大きな音が入力された場合でも、音の過大な部分を最大入力レベルの範囲内で最適なレベルに自動設定し、ノイズを抑えます。 • リニアPCMレコーダーのリミッター回路は、0 dBを超えて+12 dB以上の音声入力には対応していません。12 dB以上過入力されると、音がひずむことがあります。

各種設定を変更する(つづき)

メニュー	設定項目	設定内容(*: お買い上げ時の設定)
録音設定	リミッター	<ul style="list-style-type: none"> リミッター機能を有効に設定した場合、表示窓の最大ピーク値が0 dBを超えると、リミッターが動作している状態でのピーク値が表示されます。 設定時間は、入力レベルが0 dBを超えた場合に、リミッターが動作してから通常録音に復帰するまでの時間です。断続的に過大入力が入るような音源を録音する際には、頻繁に録音音量が変化し、違和感を感じることがあります。その際にはリカバリー時間の長い設定をお試しください。 <p>ご注意</p> <ul style="list-style-type: none"> XLR/TRSジャックに機器を接続している場合、左右いずれかまたは両方のXLR/TRS INPUT LEVELスイッチが「LINE」の位置になっていると、リミッター機能が働きます。 MIC IN/LINE INジャックに外部機器を接続している場合、MIC/LINE INPUT LEVELスイッチが「LINE」の位置になっていると、リミッター機能が働きます。
	高S/Nモード	<p>リニアPCMレコーダーでは、1チャンネルに2つのADコンバーターを使い、入力信号に応じて自動的にADコンバーターを切り替え、高いS/Nを実現しています。そのため、小さな録音レベルでも、ノイズを抑えて録音することができます。</p> <p>オン： 高S/Nモードで録音します。</p> <p>オフ*： 高S/Nモードの設定は無効になります。</p> <p>ご注意</p> <p>リミッター機能を有効にしている場合、高S/Nモードの設定は無効になります。</p>
	プリレコーディング	<p>●RECボタンを押して録音スタンバイにすると、約5秒間分の音声をバッファに記録し、■REC PAUSEボタン(または▶ボタン)を押して録音を開始すると、約5秒前から録音を開始する機能です。</p> <p>オン： プリレコーディング機能が有効になります。録音を開始すると、ボタンを押した時点の5秒前から録音を開始します。</p> <p>オフ*： プリレコーディング機能は無効になります。録音を開始すると、ボタンを押した時点から録音を開始します。</p>
	プラグインパワー	<p>MIC IN/LINE INジャックにプラグインパワー対応のマイクを接続した場合、マイクの電源をリニアPCMレコーダーから供給するプラグインパワー機能を有効、無効に設定します。</p> <p>オン： プラグインパワー機能が有効になります。</p> <p>オフ*： プラグインパワー機能は無効になります。</p>
	クロスメモリー録音	<p>内蔵メモリーまたはSDカードの残量が録音途中でなくなった場合でも、自動的にもう一方のメモリーに切り替えて録音を続けるクロスメモリー録音を有効、無効に設定します。</p> <p>オン： クロスメモリー録音が有効になります。</p> <p>オフ*： クロスメモリー録音は無効になり、メモリーが一杯になった時点で録音を停止します。</p>

メニュー	設定項目	設定内容(*: お買い上げ時の設定)
録音設定	自動トラックマーク	録音時に、自動でトラックマークをつけるか設定します。 オフ* オン <ul style="list-style-type: none"> ● 間隔設定：自動でトラックマークをつける間隔を5分、10分、15分、30分から選びます。 ● 時刻情報：自動トラックマークが付いたときの時刻の情報を、トラックマークに入れる、入れないを選びます。
再生設定	イコライザー	お好みの音質に設定できます。(49 ページ) オン：イコライザー機能を有効にします。 オフ*：イコライザー機能を無効にします。 カスタム：5バンドのサウンドレベルを自由に設定できます。
	キーコントロール	再生音の音程を、半音ずつ上下13段階(#1~#6(#1刻み)、0*、b1~b6(b1刻み))に調節します。(49 ページ)
	イージーサーチ	早戻し、早送りの間隔を設定することにより、再生したい場所をすばやく探すことができます。 オン：再生中、▶▶▶ボタンを押すと、設定した間隔進み、◀◀◀ボタンを押すと、設定した間隔戻ります。 オフ*：イージーサーチ機能を無効にします。◀◀◀または▶▶▶ボタンを押すと、ファイルの先頭または前のファイルに移動します。 間隔設定：イージーサーチ送り、戻しの間隔を設定します。 ● 設定完了：イージーサーチ送り、イージーサーチ戻しの設定を有効にします。 ● イージーサーチ送り：▶▶▶ボタンを押したときに進む間隔を、5秒、10秒*、30秒、1分、5分、10分から選びます。 ● イージーサーチ戻し：◀◀◀ボタンを押したときに戻る間隔を、1秒、3秒*、5秒、10秒、30秒、1分、5分、10分から選びます。
再生モード	シャッフル再生やリピート再生など、用途に応じた再生モードを選ぶことができます。 ノーマル*：再生範囲のファイルを順に再生します。 リピート：再生範囲のファイルを順に繰り返し再生します。 1ファイル再生：再生中または再生を始めたファイルだけを再生します。 1ファイルリピート：再生中または再生を始めたファイルを繰り返し再生します。 シャッフル：再生範囲の曲を順不同に再生します。 シャッフルリピート：再生範囲の曲を順不同に繰り返し再生します。	

各種設定を変更する(つづき)

メニュー	設定項目	設定内容(*: お買い上げ時の設定)
再生設定	再生範囲設定	<p><input type="checkbox"/> 録音したファイルからファイルの検索方法(「最新の録音」、「録音日で探す」、「フォルダ」)を選択して、表示された再生リストの中から再生する範囲を指定できます。</p> <p>全範囲を再生：録音したファイルの再生、ミュージック再生で選んだ検索方法の対象となるファイルをすべて再生します。</p> <p><input type="checkbox"/> 選択範囲内を再生*： 再生中のファイルを含むフォルダ(録音日、アーティスト、アルバムなど)の中のファイルを再生します。</p>
共通設定	ランプ	<p>ピークレベルランプ、●RECランプ、■REC PAUSEランプが点灯/点滅して、動作状態を示します。</p> <p>オン*：ランプが点灯/点滅します。</p> <p>オフ：ランプは点灯/点滅しません。</p> <p>ご注意 「ランプ」を「オフ」に設定しても、ファンタム電源ランプは消灯しません。</p>
	バックライト	<p>バックライトの点灯、消灯を設定します。</p> <p>LIGHTキー操作のみ： LIGHTボタンを操作した場合のみ、バックライトが点灯/消灯します。 20秒*：操作をしないまま20秒が経過すると、バックライトが消灯します。</p> <p>1分：操作をしないまま1分が経過すると、バックライトが消灯します。</p> <p>常時：バックライトは常時点灯します。 「常時」に設定すると、電池の寿命が短くなります。</p>
	操作音	<p>操作音のオン/オフを設定します。</p> <p>オン*：操作音が鳴ります。</p> <p>オフ：操作音は鳴りません。</p>
	言語設定(Language)	<p>表示窓に表示される言語を選択します。</p> <p>English：英語に設定します。</p> <p>日本語*：日本語に設定します。</p>
	時計設定	<p>以下を選択して設定します。</p> <p>日付時刻設定：日付と時刻を設定します。(21ページ)</p> <p>時刻表示形式：時刻の表示について、以下のいずれかを選択して設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 12時間*：12：00AM=真夜中、12：00PM=正午 • 24時間：00：00=真夜中、12：00=正午

メニュー	設定項目	設定内容(*: お買い上げ時の設定)
共通設定	オートスタンバイ	<p>リアPCMレコーダーの表示窓が消灯し、低消費電力モードに移行するまでの時間を設定します。</p> <p>オフ： オートスタンバイ機能は動きません。</p> <p>5分： 操作をしないまま5分経過すると、低消費電力モードに移行します。</p> <p>10分： 操作をしないまま10分経過すると、低消費電力モードに移行します。</p> <p>30分*：操作をしないまま30分経過すると、低消費電力モードに移行します。</p> <p>60分： 操作をしないまま60分経過すると、低消費電力モードに移行します。</p>
	電池設定	<p>最適化した動作のために、使用する電池の種類を選択します。</p> <p>アルカリ乾電池*： アルカリ乾電池を使用するときに選びます。</p> <p>ニッケル水素電池： 充電式ニッケル水素電池を使用するときに選びます。</p>
	カスタムキー設定	<p>C1、C2ボタンによく使う機能を登録することにより、C1またはC2ボタンを押すだけですぐに登録した機能を実行したり、設定画面を表示したりすることができます(63 ページ)。お買い上げ時には以下の機能が割り当てられています。</p> <p>C1： リミッター*</p> <p>C2： LCF(Low Cut)*</p> <p>C1、C2ボタンには、以下の機能を割り当てることができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 録音先フォルダ ● フォルダ作成 ● 録音モード ● ステレオ/モノラル ● ピークホールド ● ピークリセット ● LCF(Low Cut) ● リミッター ● 高S/Nモード ● プリレコーディング ● イコライザー ● キーコントロール ● イージーサーチ ● 再生モード ● 再生範囲設定 ● 保護 ● 削除 ● ファイル情報

各種設定を変更する(つづき)

メニュー	設定項目	設定内容(*: お買い上げ時の設定)
共通設定	各種初期化	設定初期化: メニューの設定をお買い上げ時の状態に戻すことができます。 内蔵メモリー初期化: 内蔵メモリー内のすべてのデータを消去し、フォルダ構成を初期状態に戻します。 SDカード初期化: SDカード内のすべてのデータを消去し、フォルダ構成を初期状態に戻します。 ご注意 <ul style="list-style-type: none">設定初期化を行ったときに、時計設定については初期化されません。リニアPCMレコーダーで使うSDカードはパソコンで初期化しないでください。内蔵メモリーやSDカードを初期化すると、すべてのデータが消去されてしまいます。(保護されたファイルも消去されます。)一度消去したファイルはもとに戻すことはできません。
	録音可能時間	現在設定している録音モードでの録音可能な残り時間や、本体およびSDカードの空き容量を表示します。
	本体情報	本体の型名やソフトウェアのバージョン番号などを表示します。

パソコンにつないで使う

リニアPCMレコーダーとパソコンを接続すると、ファイルのやり取りが行えます。

ファイルをリニアPCMレコーダーからパソコンにコピーして保存する

音楽ファイルをパソコンからリニアPCMレコーダーにコピーして再生する

USBメモリーとして利用する

パソコンに保存されている画像やテキストファイルなどを一時的に保存できます。詳しい説明についてはヘルプガイドをご覧ください。

SOUND FORGE Audio Studio 12でファイルを編集する

ソフトウェアSOUND FORGE Audio Studio 12を使って、リニアPCMレコーダーで録音したファイルをパソコンに取り込んで編集したり、パソコンに保存されている音楽ファイルをリニアPCMレコーダーに転送したりできます。SOUND FORGE Audio Studio 12の使いかたについて詳しくは、アプリのヘルプをご覧ください。

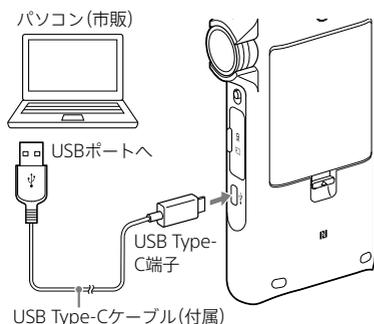
パソコンに必要なシステム構成

パソコンに必要なシステム構成については、91ページ、または「SOUND FORGE Audio Studio 12 インストールガイド」(別冊)をご覧ください。

リニアPCMレコーダーをパソコンに接続する

リニアPCMレコーダーとパソコンでファイルをや
り取りするためには、リニアPCMレコーダーをパ
ソコンに接続します。

- 1 付属のUSB Type-Cケーブルを使い、リ
ニアPCMレコーダーのUSB Type-C端
子と起動しているパソコンのUSBポ
ートを接続します。



- 2 正しく認識されているかを確認します。

Windowsでは、[コンピューター]または[PC]
を開き、「PCMRECORDER」または「MEMORY
CARD」が新しく認識されているかを確認して
ください。

Macでは、Finderに「PCMRECORDER」また
は「MEMORY CARD」という名前のドライブ
が表示されているかを確認してください。

接続するとパソコン側でリニアPCMレコーダーを
認識することができ、ファイルのやり取りが行え
ます。

接続している間はリニアPCMレコーダーの表示窓
に「接続中」の表示が出ています。

パソコンと接続して、リニアPCMレコーダーを充
電することはできません。

パソコンから取り外すには

必ず下記の手順で取り外してください。この手順
で行わないと、データが破損するおそれがありま
す。

- 1 パソコンで下記の操作を行います。

Windowsの場合：

タスクバー(パソコンの画面右下)にある
「ハードウェアを安全に取り外してメディア
を取り出す」アイコンをクリックしてくだ
さい。次に、「PCMRECORDERの取り出し」を
クリックしてください。

Macの場合：

Finderのサイドバーに表示されている
「PCMRECORDER」の取り外しアイコンをク
リックしてください。
アイコン、メニューの表示はOSの種類によっ
て異なる場合があります。

- 2 リニアPCMレコーダーの表示窓に「アクセス
中」と表示されていないことを確認します。
- 3 パソコンのUSBポートからリニアPCMレコー
ダーを取り外します。

パソコンから取り外す方法について詳しくは、お
使いのパソコンの取扱説明書をご覧ください。

困ったときは

修理を依頼される前に、もう一度下記項目をチェックしてみてください。



症状から調べる

ノイズ

症状	原因/処置
雑音が入る。	<ul style="list-style-type: none">• 内蔵マイクで録音中にリニアPCMレコーダーをこすると、雑音が入ります。• 容量の小さなファイルが多数記録されているメモリーに録音すると、雑音が入ることがあります。メモリー内のファイルをパソコンに保存してから、リニアPCMレコーダーでメモリーの初期化をしてください(70 ページ)。• 録音中や再生中にリニアPCMレコーダーを電灯線、蛍光灯、スマートフォン、携帯電話などに近づけすぎると、雑音が入ることがあります。リニアPCMレコーダーを離してください。• 外部マイクで録音したとき、マイクのプラグが汚れていると雑音が入ることがあります。プラグをきれいにクリーニングしてください。お手入れの方法については、外部マイクの取扱説明書をご覧ください。• ヘッドホンやイヤホンで聞いているとき、プラグが汚れていると雑音が入ることがあります。プラグをきれいにクリーニングしてください。お手入れの方法については、ヘッドホンの取扱説明書をご覧ください。
入力される音がひずむ。	<ul style="list-style-type: none">• MIC/LINE INPUT LEVELスイッチまたはXLR/TRS INPUT LEVELスイッチの位置が間違っています。音源、接続に合わせた位置に合わせてください(38、39、41 ページ)。• 録音レベルを適切な範囲に調整してください(32 ページ)。• 内蔵マイクまたは外部マイクを使って録音しているとき、音源の音量が大きすぎる場合は、以下のいずれかをお試しください。<ul style="list-style-type: none">- REC LEVELダイヤルを回して録音レベルを調整する(32 ページ)- MIC ATTスイッチを「20」の位置に合わせる(40 ページ)- 音源からマイクを離す• 外部機器と接続して録音しているとき、入力される音に出力過多な部分があります。外部接続機器側の出力レベルをひずまないレベルまで下げてください。
録音中「ピー」という音がする。	<ul style="list-style-type: none">• ヘッドホンで録音中の音を聞いているとき、ヘッドホンがマイクと近すぎると「ピー」という音(ハウリング)がする場合があります。ヘッドホンから出力される音を小さくするか、マイクとヘッドホンを離してください。

録音

症状	原因／処置
録音できない。	<ul style="list-style-type: none"> • MIC/LINE INPUT LEVELスイッチまたはXLR/TRS INPUT LEVELスイッチの位置が間違っています。内蔵または外部マイクを使って録音するときは「MIC」の位置に、外部機器を接続して録音するときは「LINE」の位置に合わせてください(38、39、41 ページ)。 • 録音はされていても再生音声がない場合は、録音時の音量が低く設定されている可能性があります。REC LEVELダイヤルの位置を調節してください。 • 「♪ミュージック」で管理されているフォルダには録音できません。 • メモリーがいっぱいになっているか、選んだフォルダに199ファイル録音されているため、これ以上のファイルを録音できません。別のフォルダを選ぶか(37 ページ)、不要なファイルを削除するか(56 ページ)、パソコンに保存してから、メモリーの内容を削除します。あるいは、空き容量のあるSDカードに録音します(36 ページ)。 • SDカードを使用している場合、SDカードの誤消去防止スイッチが「LOCK」の位置になっています。解除してください。 • 外部マイクをMIC IN/LINE INジャックにつないで使用するときは、メニューの「プラグインパワー」の設定をご確認ください。(66 ページ) • XLR/TRSジャックにファンタム電源対応のマイクを接続して使用するときは、マイクを接続したあとにファンタム電源スイッチを「ON」の位置に合わせてください。
88 ページの最大録音時間まで録音できない。	<ul style="list-style-type: none"> • 音声データ以外のデータ(画像データなど)がメモリーに保存されていると、最大録音時間まで録音できません。 • SDカードには最小録音単位があるため、ファイルの数が多いと、端数が出ることで実際の録音可能時間が最大録音時間より短くなる場合があります。 • 88 ページに記載されている録音可能時間は目安です。ファイル数により変わる場合があります。 • 上記の理由により、実際に録音した時間(カウンター表示)の合計と、「録音可能時間」を合計した時間が、最大録音時間より少なくなる場合があります。 • 「メモリーが一杯です」と表示されて録音が停止しても、メモリー内に編集用のエリアを確保しているため、空き容量が残っています。故障ではありません。 • ひとつのファイルでの録音容量が4 GB (LPCMファイルの場合) / 1 GB (MP3ファイルの場合) を超えると、リニアPCMレコーダーの仕様上、別ファイルでの録音が始まります。
SDカードが認識されない。	<ul style="list-style-type: none"> • SDカード内の別ファイル(画像データなど)によって、初期フォルダを作成するために必要な容量が不足しています。WindowsのエクスポーラまたはMacのFinderなどから不要なデータを削除するか、リニアPCMレコーダーでメモリーの初期化を行ってください。 • 「録音先フォルダ」の「メモリー選択」で「SDカード」を選んでください(37 ページ)。

症状から調べる(つづき)

電源

症状	原因/処置
電源が入らない、または操作ボタンを押しても動作しない。	<ul style="list-style-type: none">● 電池の⊕と⊖の向きを正しく挿入し直してください(18 ページ)。● 電池が消耗しています。交換してください(18 ページ)。● 誤操作防止の状態になっています。HOLDスイッチを「OFF」側にずらしてください(26 ページ)。● POWERスイッチが「OFF」になっています。「ON」にしてください。

再生

症状	原因/処置
内蔵スピーカーから音が出ない。	<ul style="list-style-type: none">● ヘッドホンジャック、またはLINE OUTジャックに機器が接続されています。ヘッドホンやLINE OUT接続機器を取り外してください。● オーディオ機器にBluetooth接続している場合は内蔵スピーカーから音は出ません。内蔵スピーカーを使う場合はBluetooth接続を切断してください。(52 ページ)
ヘッドホンから音が出ない。	<ul style="list-style-type: none">● オーディオ機器にBluetooth接続している場合はヘッドホンを接続しても音は出ません。ヘッドホンを使う場合はBluetooth接続を切断してください。
Bluetoothオーディオ機器から音が出ない	<ul style="list-style-type: none">● LINE OUTジャックに外部機器が接続されていると、Bluetooth接続しているオーディオ機器から音が出ません。LINE OUTジャックから外部機器を取り外してください。● 録音中の音は、Bluetoothオーディオ機器からは聞くことができません。本体のⓂ(ヘッドホン)ジャックに接続したヘッドホンから聞いてください。
ヘッドホンをつないでいても、スピーカーから音が出る。	<ul style="list-style-type: none">● 再生中にヘッドホンを差し込むとき、最後まで差し込まないとスピーカーからも音が聞こえてしまうことがあります。いったんヘッドホンを抜いて、最後までしっかり差し込んでください。
再生スピードが速すぎたり遅すぎたりする。	<ul style="list-style-type: none">● DPC(速度調節)の設定が「オン」になっているため、調節した再生スピードで再生されています。DPC(速度調節)の設定を「オフ」にすると、通常で再生されます。または、DPC(速度調節)の設定で再生スピードを調節してください(50 ページ)。
ファイルを再生できない。	<ul style="list-style-type: none">● リニアPCMレコーダーが対応しているファイル以外は再生できない場合があります。「主な仕様」(85 ページ)をご覧ください。

編集

症状	原因/処置
ファイルを削除できない。	<ul style="list-style-type: none">• SDカードを使用している場合、SDカードの誤消去防止スイッチが「LOCK」の位置になっています。解除してください。• Windowsを使用している場合、ファイル(またはそのファイルの入っているフォルダ)が、パソコン上で「読み取り専用」に設定されています。パソコンでファイルまたはフォルダを表示し、プロパティの「読み取り専用」のチェックを外してください。• Macを使用している場合、ファイル(またはそのファイルの入っているフォルダ)が、パソコン上で「ロック」に設定されています。パソコンでファイルまたはフォルダを表示し、「ファイル」の「情報を見る」から、「ロック」のチェックを外してください。• 電池残量が少なくなっています。電池を交換してください(18 ページ)。• 保護されているファイルは削除できません。保護設定を解除してから操作してください。
ファイルを分割できない。	<ul style="list-style-type: none">• メモリーに一定の空き容量がありません。• 選んだフォルダに199のファイルが入っています。不要なファイルを削除するか、別のフォルダを選んでください。• システムの制約により、ファイルのはじめと終わりでファイル分割できないことがあります。• リニアPCMLレコーダーで録音されたファイル以外(パソコンから転送したファイル)は、分割できません。• 保護されているファイルは分割できません。
ファイルを移動できない。	<ul style="list-style-type: none">• 保護されているファイルは移動できません。• 「♪ミュージック」内のファイルは、移動またはコピーできません。

症状から調べる(つづき)

表示

症状	原因/処置
ピークレベルランプ、●REC/■REC PAUSEランプが点灯/点滅しない。	<ul style="list-style-type: none">メニュー「各種設定」の「ランプ」が「オフ」に設定されています。「オン」に切り替えてください(68 ページ)。
録音日時が「---:---m---d ---:---」と表示される。	<ul style="list-style-type: none">PCM-D10以外の機種で録音したファイルは、録音日時の記録方法が異なるため、録音日時が表示されない場合があります。
オプションメニュー表示の項目が足りない。	<ul style="list-style-type: none">再生、または録音中は、表示されない項目があります。
フォルダ名やファイル名が文字化けしてしまう。	<ul style="list-style-type: none">WindowsのエクスプローラーまたはMacのFinderを使ってパソコンで名前を入力した場合、リニアPCMレコーダーで対応していない特殊文字や記号が混ざっていると、リニアPCMレコーダーの表示窓では文字化けすることがあります。
「しばらくお待ちください」表示が消えない。	<ul style="list-style-type: none">ファイル数が多いと、長時間表示されることがありますが、故障ではありません。表示が消えるまでお待ちください。このとき電池やUSB ACアダプターを抜かないでください。

ファイル

症状	原因/処置
リニアPCMレコーダーに転送したファイルが表示されない、または再生されない。	<ul style="list-style-type: none">表示できるフォルダは8階層目までです。リニアPCMレコーダーで対応している以外のファイルは、表示されない場合があります。リニアPCMレコーダーの仕様をご確認ください(85 ページ)。

パソコン

症状	原因/処置
パソコンで認識しない。パソコンからフォルダ、ファイルが転送できない。	<ul style="list-style-type: none">パソコンからリニアPCMレコーダーを外し、再度接続してください。リニアPCMレコーダーが対応しているシステム構成以外では、動作保証はいたしかねます。お使いのパソコンのUSBポートの位置によっては、認識できないことがあります。別のUSBポートに接続してください。

Bluetoothオーディオ機器

症状	原因/処置
リニアPCMレコーダーを登録できない(ペアリングできない)。	<ul style="list-style-type: none"> リニアPCMレコーダーと相手機器の距離が離れています。Bluetooth接続ができる距離(1 m以内)で登録(ペアリング)を行ってください。
Bluetooth接続ができない。	<ul style="list-style-type: none"> 電源が入っていません。リニアPCMレコーダーおよび接続するBluetoothオーディオ機器の電源を入れ、Bluetooth機能が有効になっていることを確認してください。 電池残量が少なくなっています、または電池残量がほとんどありません。新しい電池と入れ替えてください。 次のような場合は、機器登録(ペアリング)の情報が消えます。再度ペアリングしてください。 <ul style="list-style-type: none"> - どちらかの機器、または両方の機器を、設定初期化などでお買い上げ時の状態に戻してしまった場合 - 修理を行ったなど、機器登録(ペアリング)の情報が削除されてしまった場合 <p>また、リニアPCMレコーダーから機器登録(ペアリング)情報が削除され、相手機器にリニアPCMレコーダーのペアリング情報が残っている場合は、ペアリング情報を削除してから再度ペアリングしてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> リニアPCMレコーダーとBluetoothオーディオ機器の距離が離れすぎています。リニアPCMレコーダーとBluetoothオーディオ機器の距離が遠いと、Bluetooth接続ができなかったり途切れたりすることがあります。リニアPCMレコーダーとBluetoothオーディオ機器をなるべく離さないでご利用ください。
ワンタッチ接続(NFC接続)ができない。	<ul style="list-style-type: none"> 電源が入っていません。リニアPCMレコーダーの電源がオンになっていることを確認してください。 リニアPCMレコーダーのNFC設定がオフになっている可能性があります。再生停止中に、ホームメニュー(22 ページ)→「Bluetooth」→「NFC設定」を選択し、「オン」にチェックマークが付いているか確認してください。 Bluetoothオーディオ機器のNFC機能がオフになっています。接続するBluetoothオーディオ機器によっては、NFC機能や電源をオンにする必要があります。詳しくは、Bluetoothオーディオ機器の取扱説明書をご確認ください。 録音操作中(録音中、録音一時停止中、録音スタンバイ中)は、ワンタッチ接続をすることができません。録音停止状態にしてから、接続を行ってください。 ホームメニュー(22 ページ)→「Bluetooth」→「NFC設定」→「詳細設定」で、「オーディオ機器のみ」または「REC Remoteのみ」のどちらかを選択している場合、選択していない項目の機器とはNFC接続できません。その場合は、「自動(推奨)」を選択してください。

症状から調べる(つづき)

症状	原因/処置
Bluetoothオーディオ機器の音量を操作できない。	<ul style="list-style-type: none">接続するBluetoothオーディオ機器によっては、リニアPCMレコーダーで音量操作ができない場合があります。接続するBluetoothオーディオ機器によっては、標準方式の音量操作に対応していない場合があります。いったんBluetooth接続を切断し、リニアPCMレコーダーのホームメニュー(22ページ)→「Bluetooth」→「オーディオ機器」→「音量操作設定」で「拡張方式」を選択したあと、再度Bluetooth接続してから音量操作を行ってください。

REC Remote

症状	原因/処置
リニアPCMレコーダーを登録できない(ペアリングできない)。	<ul style="list-style-type: none">リニアPCMレコーダーと相手機器の距離が離れています。Bluetooth接続ができる距離(1m以内)で登録(ペアリング)を行ってください。
Bluetooth接続ができない。	<ul style="list-style-type: none">電源が入っていません。リニアPCMレコーダーおよび接続する相手機器の電源を入れ、Bluetooth機能が有効になっていることを確認してください。電池残量が少なくなっています、または電池残量がほとんどありません。新しい電池と入れ替えてください。次のような場合は、機器登録(ペアリング)の情報が消えます。再度ペアリングしてください。<ul style="list-style-type: none">- どちらかの機器、または両方の機器を、設定初期化などでお買い上げ時の状態に戻してしまった場合- 修理を行ったなど、機器登録(ペアリング)の情報が削除されてしまった場合また、リニアPCMレコーダーから機器登録(ペアリング)情報が削除され、相手機器にリニアPCMレコーダーのペアリング情報が残っている場合は、ペアリング情報を削除してから再度ペアリングしてください。リニアPCMレコーダーと相手機器の距離が離れすぎています。リニアPCMレコーダーと相手機器の距離が遠いと、Bluetooth接続ができなかったり途切れたりすることがあります。リニアPCMレコーダーと相手機器をなるべく離さないでご利用ください。

症状	原因／処置
ワンタッチ接続(NFC接続)ができない。	<ul style="list-style-type: none"> ● 電源が入っていません。リニアPCMレコーダーの電源がオンになっていることを確認してください。 ● リニアPCMレコーダーのNFC設定がオフになっている可能性があります。再生停止中に、ホームメニュー(22ページ)→「Bluetooth」→「NFC設定」を選択し、「オン」にチェックマークが付いているか確認してください。 ● スマートフォンの画面ロックを解除してください。 ● スマートフォンのNFC機能がオフになっています。接続するスマートフォンによっては、NFC機能や電源をオンにする必要があります。詳しくは、スマートフォンの取扱説明書をご確認ください。 ● 録音操作中(録音中、録音一時停止中、録音スタンバイ中)は、ワンタッチ接続をすることができません。録音停止状態にしてから、接続を行ってください。 ● ホームメニュー(22ページ)→「Bluetooth」→「NFC設定」→「詳細設定」で、「オーディオ機器のみ」または「REC Remoteのみ」のどちらかを選択している場合、選択していない項目の機器とはNFC接続できません。その場合は、「自動(推奨)」を選択してください。

システム上の制約

リニアPCMレコーダーの録音方式では、いくつかのシステム上の制約があり、次のような症状が出る場合があります。これらは故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。

症状	原因/処置
最大録音時間まで録音できない。	様々な録音モードを混ぜて録音すると、最大録音時間は各モードの最大録音時間の間になります。上記の理由により、実際に録音した時間(カウンター表示)の合計と、「録音可能時間」を合計した時間が、最大録音時間より少なくなる場合があります。
音楽ファイルを順番に表示、再生できない。	パソコンを使って、リニアPCMレコーダーに転送した音楽ファイルは、メタ情報のトラック番号やファイル名をもとに並び替えます。
録音中に自動的に分割されてしまう。	録音中のファイルまたは音楽がファイルサイズの上限(LPCMは4 GB、MP3は1 GB)に達していません。ファイルは自動的に分割されます。
英文字がすべて大文字になってしまう。	パソコンで作成したフォルダ名称の文字の組み合わせによっては英文字がすべて大文字になってしまうことがあります。
フォルダ名、ファイル名、アーティスト名、タイトル名が文字化け、または「□」が表示される。	リニアPCMレコーダーで表示できない文字が使用されています。フォルダ名、ファイル名、アーティスト名または、タイトル名を半角英数字に置き替えてください。
A-Bリピート設定で、設定位置がずれてしまう。	ファイルによっては、設定位置がずれてしまうことがあります。
ファイルを分割すると、録音可能時間が少なくなる。	ファイルを分割すると、ファイル管理をする領域が必要になるため、録音可能時間が少なくなります。

サポートページ／ヘルプガイドについて

サポートホームページで調べる

パソコンをインターネットに接続できる環境の場合、リニアPCMレコーダー「サポート・お問い合わせ」のホームページ(<https://www.sony.jp/support/ic-recorder/>)でトラブルの解決方法や最新情報などを調べることができます。

サポートホームページでは、以下の情報などを見ることができます。

- Q&A (よくある問い合わせ情報)
- ソフトウェアアップデートなどの最新情報
- 製品別サポート情報
- 重要なお知らせ(サポートからの重要なお知らせ)
- 製品登録(製品登録へのご案内)
- SOUND FORGE Audio Studio 12のダウンロードサービス

ヘルプガイドで調べる

ヘルプガイドは、ヘルプガイドページ(<http://rd1.sony.net/help/icd/pcmd10/ja/>)で見ることができます。

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間はお買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この説明書をもう一度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときは

ソニーの相談窓口(裏表紙)、お買い上げ店、またはソニーのサービス窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に従って修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社ではリニアPCMレコーダーの補修・性能部品(製品の機能を維持するために必要な部品)を、製造打ち切り後6年間保有しています。

ただし、故障の状況その他の事情により、修理に代えて製品交換をする場合がありますのでご了承ください。

主な仕様

リニアPCMレコーダーの仕様

容量 *1*2 (ユーザー使用可能領域)	16 GB (約12.80 GB = 13,743,895,347 Byte)
最大録音ファイル数 (1フォルダ内)	199ファイル
最大ファイル数 (SDカード合わせて)	5,000ファイル(フォルダ数を含む)
周波数特性 (録音再生時：LINE IN入力、 LINE OUT出力時)	<ul style="list-style-type: none"> • LPCM 192 kHz/24 bit: 20 Hz ~ 60,000 Hz (0 dB ~ -3 dB) • LPCM 176.4 kHz/24 bit: 20 Hz ~ 60,000 Hz (0 dB ~ -3 dB) • LPCM 96 kHz/24 bit: 20 Hz ~ 40,000 Hz (0 dB ~ -3 dB) • LPCM 96 kHz/16 bit: 20 Hz ~ 40,000 Hz (0 dB ~ -3 dB) • LPCM 88.2 kHz/24 bit: 20 Hz ~ 40,000 Hz (0 dB ~ -3 dB) • LPCM 88.2 kHz/16 bit: 20 Hz ~ 40,000 Hz (0 dB ~ -3 dB) • LPCM 48 kHz/24 bit: 20 Hz ~ 22,000 Hz (0 dB ~ -3 dB) • LPCM 48 kHz/16 bit: 20 Hz ~ 22,000 Hz (0 dB ~ -3 dB) • LPCM 44.1 kHz/24 bit: 20 Hz ~ 20,000 Hz (0 dB ~ -3 dB) • LPCM 44.1 kHz/16 bit: 20 Hz ~ 20,000 Hz (0 dB ~ -3 dB) • MP3 320 kbps: 20 Hz ~ 20,000 Hz (0 dB ~ -3 dB) • MP3 128 kbps: 20 Hz ~ 16,000 Hz (0 dB ~ -3 dB)
再生対応ファイルフォー マット	MP3 *3*4 <ul style="list-style-type: none"> • ビットレート: 32 kbps ~ 320 kbps、可変ビットレート (VBR) 対応 • サンプリング周波数: 16/22.05/24/32/44.1/48 kHz • 拡張子: .mp3
	WMA *3*5 <ul style="list-style-type: none"> • ビットレート: 32 kbps ~ 192 kbps、可変ビットレート (VBR) 対応 • サンプリング周波数: 44.1 kHz • 拡張子: .wma
	AAC-LC *3*6 <ul style="list-style-type: none"> • ビットレート: 16 kbps ~ 320 kbps、可変ビットレート (VBR) 対応 • サンプリング周波数: 11.025/12/16/22.05/24/32/44.1/48 kHz • 拡張子: .m4a
	LPCM *3 <ul style="list-style-type: none"> • 量子化ビット数: 24 ビット • サンプリング周波数: 192/176.4/96/88.2/48/44.1 kHz • 拡張子: .wav
	LPCM *3 <ul style="list-style-type: none"> • 量子化ビット数: 16 ビット • サンプリング周波数: 192/176.4/96/88.2/48/44.1/22.05 kHz • 拡張子: .wav
	FLAC *3 <ul style="list-style-type: none"> • 量子化ビット数: 24 ビット • サンプリング周波数: 192/176.4/96/88.2/48/44.1 kHz • 拡張子: .flac

主な仕様(つづき)

再生対応ファイルフォーマット	FLAC*3 <ul style="list-style-type: none"> 量子化ビット数: 16ビット サンプリング周波数: 192/176.4/96/88.2/48/44.1/22.05 kHz 拡張子: .flac
信号対雑音比 (SN比) (録音再生時*7: LINE IN入力、LINE OUT出力時)	<ul style="list-style-type: none"> 高S/Nモードオフの場合: 98 dB以上 (1 kHz、IHF-A、負荷インピーダンス: 22 kΩ) 高S/Nモードオンの場合: 100 dB以上 (1 kHz、IHF-A、負荷インピーダンス: 22 kΩ)
全高調波ひずみ率 (録音再生時*8: LINE IN入力、LINE OUT出力時)	0.009%以下 (1 kHz、20 kHz LPF、負荷インピーダンス: 22 kΩ)
最大入力音圧 (内蔵マイク)	123 dB SPL
固有雑音 (内蔵マイク)	22 dB SPL(A) Typ
Bluetooth	<ul style="list-style-type: none"> 通信方式: Bluetooth標準規格 Ver 4.0 最大通信範囲*9: 見通し距離 約10 m 使用周波数帯域: 2.4 GHz帯 (2.4000 GHz~2.4835 GHz) 変調方式: FHSS 対応Bluetoothプロファイル*10: SPP 1.2 (Serial Port Profile) A2DP 1.3 (Advanced Audio Distribution Profile) AVRCP 1.3 (Audio Video Remote Control Profile) 登録可能機器数: 最大8台 (REC Remote機器とオーディオ機器合わせて) 対応コーデック*11: SBC (Subband Codec)
内蔵スピーカー	直径16 mm
入・出力端子	<ul style="list-style-type: none"> MIC IN/LINE INジャック (ステレオミニ) MIC (MIC ATT : 0) 入力インピーダンス: 2 kΩ 規定入力レベル: -50 dBV 最小入力レベル: -55 dBV LINE 入力インピーダンス: 8.2 kΩ 規定入力レベル: +4 dBV 最小入力レベル: -10 dBV 最大入力レベル: +10 dBV XLR/TRSジャック MIC (MIC ATT : 0) 入力インピーダンス: 32 kΩ (ファンタム電源OFF) 規定入力レベル: -48 dBu 最小入力レベル: -58 dBu LINE 入力インピーダンス: 12 kΩ 規定入力レベル: +6 dBu 最小入力レベル: -3 dBu 最大入力レベル: +12 dBu

入・出力端子	<ul style="list-style-type: none"> ヘッドホンジャック (ステレオミニ) 規定出力レベル: 400 mV 最大出力レベル: 35 mW+35 mW以上(負荷インピーダンス: 16 Ω) 推奨負荷インピーダンス: 16 Ω ~ 32 Ω LINE OUTジャック(ステレオミニ) 出力インピーダンス: 220 Ω 規定出力レベル: +4 dBV 推奨負荷インピーダンス: 22 kΩ USB端子(USB Type-C端子) High-Speed USB対応 カードスロット: SD対応スロット
再生スピード調節(DPC)	<ul style="list-style-type: none"> 1.00 倍速~0.25 倍速: サンプリング周波数 88.2 kHz以上のFLAC 2.00 倍速~0.25 倍速: サンプリング周波数 88.2 kHz以上のLPCM、88.2 kHz未満のFLAC 3.00 倍速~0.25 倍速: 上記以外
スピーカー実用最大出力	200 mW
電源	DC 6 V 単3形アルカリ乾電池(付属) 4本 DC 4.8 V 単3形ニッケル水素充電電池(別売) 4本
動作温度	5 °C ~ 35 °C
最大外形寸法 (最大突起部含まず)	約80.2 mm × 197.6 mm × 37.4 mm (幅/高さ/奥行き)
質量	約480 g (電池含む)
付属品	17 ページ参照
別売アクセサリ	<ul style="list-style-type: none"> USB ACアダプター 市販のUSB ACアダプターを使用するときは、出力電流500 mA以上で給電可能なUSB ACアダプターをご使用ください。これ以外の機器からの動作は保証しておりません。 USBポータブル電源 最新の対応機器は、https://www.sony.jp/battery/search/をご覧ください。

*1 メモリー容量の一部をデータ管理領域として使用しています。

*2 リニアPCMレコーダーで内蔵メモリーを初期化した場合

*3 すべてのエンコーダーに対応しているわけではありません。

*4 これに加えてリニアPCMレコーダーの各録音モードで録音したMP3ファイルの再生にも対応しています。

*5 WMA Ver.9には準拠していますが、MBR (Multi Bit Rate)、Lossless、Professional、Voiceには対応していません。

*6 著作権保護されたファイルは再生できません。

*7 以下の録音モードの場合

- LPCM 192 kHz 24 bit
- LPCM 176.4 kHz 24 bit
- LPCM 96 kHz 24 bit
- LPCM 88.2 kHz 24 bit
- LPCM 48 kHz 24 bit
- LPCM 44.1 kHz 24 bit

主な仕様(つづき)

*8 以下の録音モードの場合

- LPCM 192 kHz 24 bit
- LPCM 176.4 kHz 24 bit
- LPCM 96 kHz 16/24 bit
- LPCM 88.2 kHz 16/24 bit
- LPCM 48 kHz 16/24 bit
- LPCM 44.1 kHz 16/24 bit

*9 通信環境によって変化する場合があります。

*10 Bluetoothプロファイルとは、Bluetooth機器の特性ごとに機能を標準化したものです。

*11 音声圧縮変換方式のこと

リニアPCMレコーダーの仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

最大録音時間*1*2

最大録音可能時間は、全フォルダ合わせて下記のとおりです。

録音モード	内蔵メモリー
LPCM 192kHz/24bit (STEREO)	3時間15分
LPCM 176.4kHz/24bit (STEREO)	3時間35分
LPCM 96kHz/24bit (STEREO)	6時間35分
LPCM 96kHz/16bit (STEREO)	9時間55分
LPCM 88.2kHz/24bit (STEREO)	7時間10分
LPCM 88.2kHz/16bit (STEREO)	10時間45分
LPCM 48kHz/24bit (STEREO)	13時間15分
LPCM 48kHz/16bit (STEREO)	19時間50分
LPCM 44.1kHz/24bit (STEREO)	14時間25分
LPCM 44.1kHz/16bit (STEREO)	21時間35分
MP3 320 kbps (STEREO)	95時間25分
MP3 128 kbps (STEREO)	238時間

録音モード	メモリーカード				
	16 GB	32 GB	64 GB	128 GB	256 GB
LPCM 192kHz/24bit (STEREO)	3時間40分	7時間25分	14時間50分	29時間45分	59時間35分
LPCM 176.4kHz/24bit (STEREO)	4時間	8時間5分	16時間10分	32時間25分	64時間55分
LPCM 96kHz/24bit (STEREO)	7時間25分	14時間50分	29時間45分	59時間35分	119時間
LPCM 96kHz/16bit (STEREO)	11時間10分	22時間20分	44時間40分	89時間25分	178時間
LPCM 88.2kHz/24bit (STEREO)	8時間5分	16時間10分	32時間25分	64時間55分	129時間
LPCM 88.2kHz/16bit (STEREO)	12時間10分	24時間20分	48時間40分	97時間20分	194時間
LPCM 48kHz/24bit (STEREO)	14時間50分	29時間45分	59時間35分	119時間	238時間
LPCM 48kHz/16bit (STEREO)	22時間20分	44時間40分	89時間25分	178時間	357時間
LPCM 44.1kHz/24bit (STEREO)	16時間10分	32時間25分	64時間55分	124時間	259時間
LPCM 44.1kHz/16bit (STEREO)	24時間20分	48時間40分	97時間20分	194時間	389時間
MP3 320 kbps (STEREO)	107時間	214時間	429時間	858時間	1,717時間
MP3 128 kbps (STEREO)	268時間	536時間	1,073時間	2,147時間	4,294時間

*1 連続録音の場合は、別売のUSB ACアダプターが必要になります。詳しくは電池の持続時間(90 ページ)をご確認ください。

*2 表記の最大録音時間は目安です。カードの仕様によって変わることがあります。

主な仕様(つづき)

1ファイル最大録音可能時間*1 *2 *3

録音モード	内蔵メモリー
LPCM 192kHz/24bit (STEREO)	1時間
LPCM 96kHz/24bit (STEREO)	2時間
LPCM 44.1kHz/16bit (STEREO)	6時間45分
MP3 320 kbps (STEREO)	7時間25分
MP3 128 kbps (STEREO)	18時間30分

*1 連続録音の場合は、別売のUSB ACアダプターが必要になります。詳しくは電池の持続時間(下記)をご確認ください。

*2 表記の最大録音時間は目安です。

*3 システム制約でファイルサイズの上限(LPCMは4 GB、MP3は1 GB)を超えて録音する場合は、ファイルが分割されます。

音楽ファイル最大再生時間/ファイル数*

ビットレート	再生時間	ファイル数
128kbps	238時間	3,570ファイル
256kbps	119時間	1,785ファイル

* パソコンにある1ファイル4分のMP3ファイルを転送して再生する場合

電池の持続時間

乾電池の持続時間(ソニーアルカリ乾電池LR6(SG)を連続使用時) *

録音モード	録音時		録音時(XLRマイク ファンタム電源ON)		内蔵スピー カー再生時	ヘッドホン 再生時	REC Remote 録音時	Bluetooth 再生時
	録音モニ ターあり	録音モニ ターなし	録音モニ ターあり	録音モニ ターなし				
LPCM 192kHz/24bit (STEREO)	約26時間	約32時間	約6時間	約6時間	約38時間	約40時間	約22時間	約40時間
LPCM 96kHz/24bit (STEREO)	約28時間	約36時間	約6時間	約6時間	約52時間	約54時間	約24時間	約48時間
LPCM 48kHz/24bit (STEREO)	約30時間	約44時間	約6時間	約6時間	約60時間	約62時間	約26時間	約54時間
LPCM 44.1kHz/16bit (STEREO)	約30時間	約44時間	約6時間	約6時間	約62時間	約70時間	約26時間	約56時間
MP3 320kbps (STEREO)	約30時間	約44時間	約6時間	約6時間	約64時間	約74時間	約26時間	約60時間

* 当社規定による測定値です。使用条件によって短くなる場合があります。

必要なシステム構成

パソコンと接続する場合や、USBメモリーとして使う場合に必要なシステム構成は以下の通りです。
SOUND FORGE Audio Studio 12をお使いの場合は、「SOUND FORGE Audio Studio 12 インストールガイド」(別冊)をご覧ください。

OS

- Windows 10/Windows 8.1/Windows 7 (Service Pack1以降)
- macOS (v10.10 ~ v10.14)

ご注意

- 上記のOSがパソコン工場出荷時にインストールされている必要があります。
アップグレードした場合や、マルチブート環境の場合は、動作保証いたしません。
- 最新の対応OSについては、103 ページに記載のリニアPCMレコーダー「サポート・お問い合わせ」ページをご覧ください。

以下の性能を満たしたWindowsコンピューターまたはMac

- USBポート
- ディスクドライブ：音楽CDを作成する場合はCD-R/RWドライブが必要です。

使用上のご注意

無線の周波数について

本製品が使用している周波数は、他の無線機器でも使用していることがあります。

他の無線機器との電波干渉を防止するため、下記事項に注意してご使用ください。

2.4 GHz機器使用上の注意事項

本製品の使用周波数は2.4 GHz帯です。この周波数帯では電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ライン等で使用される免許を要する移動体識別用構内無線局、免許を要しない特定の小電力無線局、アマチュア無線局等(以下「他の無線局」と略す)が運用されています。

1. 本製品を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、本製品と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかに本製品の使用場所を変えるか、または本製品の運用を停止(電波の発射を停止)してください。
3. 不明な点その他お困りのことが起きたときは、ソニーの相談窓口までお問い合わせください。

この無線製品は2.4 GHz帯を使用します。変調方式としてFHSS変調方式を採用し、与干渉距離は30 mです。

2.4 F H 3

使用場所について

- 運転中の使用は危険ですのでおやめください。
- 飛行機内で使用する際は、離着陸時など、機内のアナウンスに従ってご使用をお控えください。

取り扱いについて

- 落としたり、重いものを乗せたり、強いショックを与えたり、圧力をかけないでください。リニアPCMレコーダーの故障の原因となります。
- リニアPCMレコーダーをお使いになるときは、キャビネットの変形や故障を防ぐために、次のことを必ずお守りください。
 - リニアPCMレコーダーをズボンなどの後ろのポケットに入れて座らない。
 - リニアPCMレコーダーにヘッドホン巻き付けのまま、かばんの中に入れ、外から大きな力を加えない。
- 次のような場所には置かないでください。
 - 温度が非常に高いところ(60℃以上)。
 - 直射日光のあたる場所や暖房器具の近く。
 - 窓を閉めきった自動車内(特に夏季)。
 - 風呂場など湿気の多いところ。
 - ほこりの多いところ。
- 水がかからないようご注意ください。リニアPCMレコーダーは防水仕様ではありません。特に以下の場合、ご注意ください。
 - 洗面所などでリニアPCMレコーダーをポケットに入れての使用。
身体をかがめたときなどに、落として水濡れの原因になる場合があります。
 - 雨や雪、湿度の多い場所での使用。
 - 汗をかく状況での使用。
濡れた手で触ったり、汗をかいた衣服のポケットにリニアPCMレコーダーを入れると、水濡れの原因になることがあります。
- 空気が乾燥する時期にヘッドホンを使用すると、耳にピリピリと痛みを感じることがありますが、ヘッドホンの故障ではなく、人体に蓄積された静電気によるものです。静電気の発生しにくい天然素材の衣服を身に付けていただくことにより、軽減されます。

万一故障した場合は、内部を開けずにお買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。

ご使用について

- ヘッドホンをご使用中、肌に合わないと感じたときは早めに使用を中止して医師またはソニーの相談窓口(裏表紙)に相談してください。
- ヘッドホンを付けたまま寝ないでください。

ノイズについて

- 録音中や再生中にリニアPCMレコーダーを電灯線、蛍光灯、スマートフォン、携帯電話などに近づけすぎると、ノイズが入ることがあります。
- 録音中にリニアPCMレコーダーに手などが当たったり、こすったりすると、雑音が増えることがあります。

ヘッドホン出力について

音量を上げすぎないようにご注意ください。リニアPCMレコーダーは、ヘッドホンの出力が大きい為、一般の機器に比べて音量が大きめに設定されていますので、適切な音量に調節してお聞きください。

内蔵マイクについて

リニアPCMレコーダーの内蔵マイクは高性能エレクトレットコンデンサーマイクです。マイク部に強い風を吹きかけたり、水をかけたりしないでください。

お手入れ

本体表面が汚れたときは、水気を含ませた柔らかい布で軽くふいたあと、からぶきします。シンナーやベンジン、アルコール類は表面の仕上げを傷めますので使わないでください。

バックアップのおすすめ

万一の誤消去や、リニアPCMレコーダーの故障などによるデータの消滅や破損にそなえ、大切な録音内容は、必ず予備として、パソコンまたはメモリーカードに保存してください。

リニアPCMレコーダーを廃棄するときのご注意

廃棄するときは、内蔵メモリーの初期化(70ページ)を行い、すべてのデータを削除してください。

SDカードのご使用について

- 初期化は必ず本機で行ってください。(70ページ)
パソコンなど本機以外の機器を用いて初期化したSDカードは、本機での動作を保証しません。
- すでにデータが書き込まれているSDカードを初期化すると、そのデータが消去されてしまいます。誤って大切なデータを消去することがないように、ご注意ください。
- SDカードは、小さいお子様の手の届くところに置かないようにしてください。誤って飲み込むおそれがあります。
- 録音/再生/初期化中は、SDカードを抜き差ししないでください。故障の原因となります。
- 表示窓に「接続中/アクセス中」「保存中」「しばらくお待ちください」が表示されている間はSDカードを取り出さないでください。データが破損するおそれがあります。
- 対応仕様のSDカードでも、すべてのSDカードでの動作を保証するものではありません。
- ROMタイプのSDカード、誤消去防止、書き込み禁止のSDカードは、ご使用できません。
- 以下の場合、データが破壊されることがあります。
 - 読み込み中、書き込み中にSDカードを取り出した時、機器の電源を切った場合
 - 静電気や電氣的ノイズの影響を受ける場所で使用した場合
- お客様の記録したデータの破損(消滅)については、弊社は一切その責任を負いかねますのでご容赦ください。
- 大切なデータは、バックアップを取っておくことをおすすめします。

使用上のご注意(つづき)

- 端子部には手や金属などを触れないでください。
- 強い衝撃を与えたり、曲げたり、落としたりしないでください。
- 分解したり、改造したりしないでください。
- 水にぬらさないでください。
- 以下のような場所でのご使用はしないでください。
 - 使用条件範囲以外の場所(炎天下や夏場の窓を閉め切った車の中、直射日光のあたる場所、熱器具の近くなど)
 - 湿気の多い場所や腐食性のある場所
- ご使用の際は正しい挿入方向をご確認ください。
- ラベルなどを貼らないでください。SDカードが取り出せなくなる可能性があります。



下記の注意事項を守らないと火災・感電により死亡や大けがの原因となります。



火の中に入れてない

禁止



内部を開けない

分解禁止

感電の原因となることがあります。内部の点検や修理はお買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご相談ください。



運転中は使用しない

禁止

- 自動車、オートバイなどの運転をしながらヘッドホンなどを使用したり、細かい操作をしたり、表示画面を見ることは絶対におやめください。交通事故の原因となります。
- また、歩きながら使用するときも、事故を防ぐため、周囲の交通や路面状況に充分ご注意ください。



内部に水や異物を落とさない

禁止

水や異物が入ると火災や感電の原因となります。万一、水や異物が入ったときは、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご相談ください。



湿気やほこり、油煙、湯気の多い場所や、直射日光のあたる場所には置かない

禁止

火災や感電の原因となることがあります。とくに風呂場では絶対に使用しないでください。



周囲の音が聞こえないと危険な場所では使用しない

禁止

踏切りや駅のホーム、車の通る道、工事現場などでは、周囲の音が聞こえないと危険です。そのような場所では使用しないでください。事故やけがの原因となります。



注意

下記の注意事項を守らないとけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。



禁止

大音量で長時間つづけて聞きすぎない

耳を刺激するような大きな音量で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。とくにヘッドホンで聞くときにご注意ください。呼びかけられて返事ができるくらいの音量で聞きましょう。



禁止

はじめからボリュームを上げすぎない

突然大きな音のでて耳を痛めることがあります。



指示

本製品を航空機内で使用する場合は、客室乗務員の指示に従う

電波が影響を及ぼし、誤動作による事故の原因となるおそれがあります。



禁止

本製品を医療機器の近くで使用しない

電波が心臓ペースメーカーや医療用電気機器に影響を与えるおそれがあります。

満員電車などの混雑した場所や医療機関の屋内では使用しないでください。



注意

本製品を心臓ペースメーカーの装着部位から22cm以上離す

電波によりペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。



禁止

本製品を自動ドア、火災報知器などの自動制御機器の近くでは使用しない

電波が影響を及ぼし、誤動作による事故の原因となるおそれがあります。



指示

本製品は、国内専用です

海外では国によって電波使用制限があるため、本製品を使用した場合、罰せられることがあります。

電池についての安全上のご注意

液漏れ・破裂・発熱・発火・誤飲による大けがや失明を避けるため、以下の注意事項を必ずお守りください。

電池の種類については、電池本体上の表示をご確認ください。

種類によっては該当しない注意事項もあります。

充電式電池

ニカド (Ni-Cd)

ニッケル水素 (Ni-MH)

リチウムイオン (Li-ion)

乾電池

アルカリ、マンガン

電池を火のそばや直射日光のあたるところなど、高温の場所で使用、保管、放置しないで下さい。破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。



充電式電池について

- 機器の表示に合わせて＋と－を正しく入れる。
- 取扱説明書に記載された充電方法以外で充電しない。
- バッテリーキャリングケースが付属されている場合は、必ずキャリングケースに入れて携帯、保管する。
- 火の中に入れてない。
- ショートさせたり、分解、加熱しない。
- コイン、キー、ネックレスなどの金属類と一緒に携帯、保管しない。
- 火のそばや直射日光のあたるところ、炎天下の車中など、高温の場所で使用、保管、放置しない。

- 水などで濡らさない。風呂場などの湿気の多いところで使わない。
- 外装のビニールチューブをはがしたり傷つけたりしない。
- 指定された種類の充電式電池以外は使用しない。
- 長時間使用しないときは取りはずす。
- 液漏れした電池は使わない。
- 種類の違う電池を混ぜて使わない。

日本国内での充電式電池の廃棄について



Ni-MH

ニッケル水素充電電池は、リサイクルできます。不要になったニッケル水素充電電池は、金属部にセロハンテープなどの絶縁テープを貼って充電式電池リサイクル協力店へお持ちください。

充電式電池の回収・リサイクルおよびリサイクル協力店については一般社団法人JBRCホームページ <http://www.jbrc.com/> を参照してください。

お願い

使用済み充電式電池は貴重な資源です。端子(金属部分)にテープを貼るなどの処理をして、充電式電池リサイクル協力店にご持参ください。

電池についての安全上のご注意(つづき)

危険

電池が液漏れしたとき

- 電池の液が漏れたときは素手で液をさわらない。
- 液が本体内部に残ることがあるため、ソニーの相談窓口(裏表紙)またはソニーサービス窓口にご相談する。
- 液が目に入ったときは、失明の原因になることがあるため、目をこすらず、すぐに水道水などのきれいな水で充分洗い、ただちに医師に相談する。
- 液が身体や衣服についたときは、やけどやけがの原因になるため、すぐにきれいな水で洗い流し、皮膚に炎症やけがの症状があるときには医師に相談する。

警告

乾電池について

- 小さい電池は飲み込むおそれがあるので、乳幼児の手の届かないところに保管する。電池を飲み込んだときは、窒息や胃などへの障害の原因になるので、ただちに医師に相談してください。
- 機器の表示に合わせて＋と－を正しく入れる。
- 充電しない。
- 火の中に入れない。
- ショートさせたり、分解したり、加熱したりしない。
- コイン、キー、ネックレスなどの金属類と一緒に携帯、保管しない。
- 使い切った電池は取りはずす。長時間使用しないときは取りはずす。
- 新しい電池と使用した電池、種類の異なる電池を混ぜて使わない。
- 液漏れした電池は使わない。
- 廃棄の際は、地方自治体の条例または規則に従ってください。

注意

乾電池について

- 火のそばや直射日光の当たるところ、炎天下の車中など、高温の場所で使用、保管、放置しない。
- 水などで濡らさない。風呂場などの湿気の多いところで使わない。
- 外装のビニールチューブをはがしたり傷つたりしない。
- 指定された種類の電池以外は使用しない。

著作権と商標とライセンスについて

著作権について

- 権利者の許諾を得ることなく、このマニュアルの全部または一部を複製、転用、送信等を行うことは、著作権法上禁止されています。
- あなたが録音したものは、個人として楽しむなどの他は、著作権法上権利者に無断で使用できません。
著作権の対象になっている画像やデータの記録されたメディアは、著作権法の規定による範囲内で使用する以外はご利用いただけませんので、ご注意ください。

商標とライセンスについて

- Microsoft、Windows、Windows Mediaは、米国 Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- SDXC、SDHC、SD、microSDXC、microSDHC及び microSDロゴはSD-3C、LLCの商標です。



- Apple、Apple logo、iPhone、MacおよびmacOSは、米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。
「iPhone」の商標は、アイホン株式会社からライセンスを受け使用しています。
App StoreはApple Inc.のサービスマークです。
- 「Made for Apple」バッジは、アクセサリが本バッジに記載されたアップル製品専用に接続するように設計され、アップルが定める性能基準を満たしていることを示します。アップルは、本製品の機能および安全および規格への適合について一切の責任を負いません。

- iPhone対応モデル
iPhone X、iPhone 8、iPhone 8 Plus、iPhone 7、iPhone 7 Plus、iPhone SE、iPhone 6s、iPhone 6s Plus、iPhone 6、iPhone 6 Plus、iPhone 5s、iPhone 5c、iPhone 5



- Android および Google PlayはGoogle LLCの商標です。
- BLUETOOTH® ワードマークとロゴは、Bluetooth SIG, Inc.の所有であり、ソニー株式会社はライセンスに基づきこのマークを使用しています。他のトレードマークおよびトレード名称については、個々の所有者に帰属するものとします。



- Sound Forge Audio Studio 12は、MAGIX Software GmbHの登録商標です。
- Nマークは、NFC Forum, Inc.の米国その他の国における商標または登録商標です。



- ㊿は、フェリカネットワークス株式会社の登録商標です。
- USB Type-C™およびUSB-C™は、USB Implementers Forumの商標です。
- その他、本書で登場するシステム名、製品名、サービス名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。なお、本文中では®、™マークは明記していません。
- 本機は、Fraunhofer IIS および Thomson のMPEG Layer-3 オーディオコーディング技術特許に基づく許諾製品です。
- This product is protected by certain intellectual property rights of Microsoft Corporation. Use or distribution of such technology outside of this product is prohibited without a license from Microsoft or an authorized Microsoft subsidiary.

ライセンスに関する注意

本製品には、弊社がその著作権者とのライセンス契約に基づき使用しているソフトウェアが搭載されております。

当該ソフトウェアの著作権者様の要求に基づき、弊社はこれらの内容をお客様に通知する義務があります。

ライセンス内容(英文)に関しては、リニアPCMレコーダーの内蔵メモリー内に記録されています。

リニアPCMレコーダーとパソコンをマストレージ接続し、「LICENSE」内にあるファイルをご一読ください。

GNU GPL/LGPL適用ソフトウェアに関するお知らせ

本製品には、以下のGNU General Public License (以下「GPL」とします)または、GNU Lesser General Public License (以下「LGPL」とします)の適用を受けるソフトウェアが含まれております。

お客様はGPL/LGPLの条件に従いこれらのソフトウェアのソースコードの入手、改変、再配布の権利があることをお知らせいたします。

ソースコードは、Webで提供しております。

ダウンロードするには、以下のURLにアクセスしてください。

<http://www.sony.net/Products/Linux/>

なお、ソースコードの中身についてのお問い合わせはご遠慮ください。

ライセンス内容(英文)に関しては、リニアPCMレコーダーの内蔵メモリー内に記録されています。

リニアPCMレコーダーとパソコンをマストレージ接続し、「LICENSE」内にあるファイルをご一読ください。

索引

あ行

頭出し	59
イーザーサーチ	48
イコライザー	49
オートスタンバイ	69
お手入れ	93
オプションメニュー一覧	23

か行

外部機器	31, 41, 42
外部マイク	38, 39, 40
カスタムキー設定	63
キーコントロール	49
クロスメモリー録音	30
言語設定	68
高S/Nモード	29
困ったときは	73

さ行

再生	43
再生範囲設定	47
再生モード	47
最大録音時間	88
三脚	28
時刻表示形式	68
自動トラックマーク	30
仕様	85
使用上のご注意	92
ステレオ/モノラル	64
設定初期化	70

た行

電源	18
電池残量	19
電池設定	69
電池蓋	18
時計	21
時計設定	68

な行

内蔵マイク	31
-------	----

は行

早送り再生	46
早戻し再生	46
ピークホールド	29
ピークリセット	29
ピークレベルメーター	32
ピークレベルランプ	32
表示窓	14
ファンタム電源スイッチ	39
付属品	17
プラグインパワー	66
プリレコーディング	35
ヘッドホン	43
本体情報	70

ま行

メニュー	22
メモリー残量	33
メモリー初期化	70

ら行

ランプ	68
リミッター	65
録音	31
録音一時停止	33
録音先フォルダ	37
録音停止	33
録音前の準備	27
録音モード	64
録音モニター	34

わ行

ワンタッチ接続	53
---------	----

アルファベット順

A-Bリピート	46
Bluetooth	52
DPC (速度調節)	50
HOLDスイッチ	26
INPUTスイッチ	38, 39, 41
LCF(Low Cut)	65
LIGHTボタン	13
LINE OUTジャック	51
MIC ATTスイッチ	40

索引(つづき)

MIC IN/LINE INジャック	38
MIC/LINE INPUT LEVELスイッチ	38, 41
NFC	53
POWERスイッチ	19
REC LEVELダイヤル	32
REC Remote	54
SDカード	36
USB Type-C端子	72
VOLボタン	34, 43
XLR/TRS INPUT LEVELスイッチ	39
XLR/TRSジャック	39

記号・数字

Nマーク	53
▶ ボタン	43
● RECボタン	31
■ REC PAUSEボタン	32, 35
■ STOPボタン	33
Ω (ヘッドホン)ジャック	34
Ω OUTPUTボタン	34

お問い合わせ窓口のご案内

本機についてご不明な点や**技術的なご質問、故障と思われるときのご相談**については、下記のお問い合わせ先をご利用ください。

- ホームページで調べるには⇒ **リニア PCM レコーダー「サポート・お問い合わせ」へ**
(<https://www.sony.jp/support/ic-recorder/>)

リニア PCM レコーダーに関する最新サポート情報や、よくあるお問い合せとその回答をご案内するホームページです。

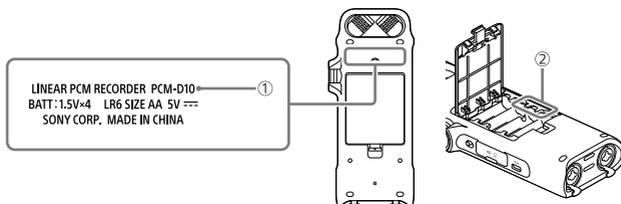
- **電話・FAX でのお問い合わせは**

⇒ **ソニーの相談窓口へ（裏表紙に記載の電話・FAX 番号）**

- 本機の商品カテゴリーは [リニア PCM レコーダー] です。
- お問い合わせの際は、次のことをお知らせください。

- ◆ セット本体に関するご質問時：

- ー 型名 (①) : PCM-D10
- ー ご相談内容 : できるだけ詳しく
- ー シリアルナンバー (②) : 電池蓋を開けた内側に記載
- ー お買い上げ年月日



- ◆ ソフトウェアに関連するご質問時：

質問の内容によっては、お客さまのシステム環境についてご質問させていただく場合があります。上記内容に加えて、システム環境を事前に分かる範囲でご確認いただき、お知らせください。

型名：PCM-D10

よくあるお問い合わせ、窓口受付時間などは
ホームページをご活用ください。

<https://www.sony.jp/support/>

使い方相談窓口

フリーダイヤル…………… **0120-333-020**
携帯電話・PHS・一部のIP電話… **050-3754-9577**

修理相談窓口

フリーダイヤル…………… **0120-222-330**
携帯電話・PHS・一部のIP電話… **050-3754-9599**

※取扱説明書・リモコン等の購入相談はこちらへお問い合わせください。

FAX(共通) 0120-333-389

左記番号へ接続後、
最初のガイダンスが
流れている間に
「303」+「#」
を押してください。
直接、担当窓口へ
おつなぎします。

ソニー株式会社 〒108-0075 東京都港区港南1-7-1



* 4 7 4 4 5 2 8 0 1 * (1)